

東北学院大学 情報処理センター一年報

平成16年度版
No. 3



目 次

1	巻頭言 学長 星宮 望	1
2	情報システム部長・情報処理センター長挨拶 法学部教授 高木龍一郎	3
3	情報処理センターのシステム紹介と利用事例	5
3.1	システムについて	5
3.2	土樋情報処理センターのシステム紹介	6
3.3	土樋情報処理センターの利用事例紹介	8
3.4	泉情報処理センターのシステム紹介	19
3.5	泉情報処理センターの利用事例紹介	20
3.6	多賀城情報処理センターのシステム紹介	35
3.7	多賀城情報処理センターの利用事例の紹介	37
4	情報処理センター報告（平成16年度データ）	55
4.1	利用状況報告	55
4.1.1	登録者数	55
4.1.2	利用者状況	56
4.1.3	授業科目名	57
4.1.4	時間割表	61
4.2	各種会議報告	64
4.2.1	情報システム委員会	64
4.2.2	情報システム部会	64
4.2.3	所員会議	64
4.3	講習会	65
4.4	センター見学者	65

5	平成16年度情報処理センター運営組織	67
5.1	組織図	67
5.2	情報システム委員会名簿	68
5.3	情報処理センター構成員名簿	69
6	東北学院大学情報処理センター利用規程	70
6.1	東北学院大学情報システム委員会規程	70
6.2	東北学院大学情報処理センター運営委員会規程	71
6.3	東北学院大学情報処理センター利用規則	73
7	編集後記	74

1. 巻頭言

東北学院大学の情報システムの高度化に期待する

学長 星宮 望

今般、「東北学院大学情報処理センター年報」が刊行されることにあたり、ご挨拶を申し上げます。皆様ご承知の通り、21世紀に入って、世界が真にグローバル化してまいりました。最も特徴的なことは1989年のベルリンの壁が崩壊した主要因が情報のグローバル化にあったといわれており、その後、急速に進んでおります。

当、東北学院大学におきましても、教職員各位のご努力によって、年々情報システムが高度化し、教育研究面において多くの成果をあげてきております。このことは大変素晴らしいことであると思ひますし、それらを達成するためにご努力くださいました方々に御礼を申し上げたいと思ひます。しかしながら、

この分野は予想を超えるほどのスピードで進展しておりますので、常日頃から万全の体制で、かつ真剣に対処しなければならないと思ひます。

学生諸君が授業で取り上げられた教材について調べることを取り上げてみても、古くは、教科書や教員から与えられた資料あるいは図書館にある資料を調べる程度で済んだことに比べれば、現在ではすぐにインターネットを介して全世界の情報から即座に必要な情報を入手できるようになっておりますしそうしなければならなくなっております。このような時代における大学の教育内容・教育手段には必然的にグローバルな情報システムと対峙する学内情報システムの整備が欠かせないと思ひます。このような意味で、是非、東北学院大学の情報システムの高度化を推進していただきたいと念じております。



(平成17年7月)

2. 情報システム部長・情報処理センター長挨拶

法学部教授 高木 龍一郎

はじめに、情報処理センター年報第3号を発刊するに際し、情報処理センター長として、大学内外の関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

さて、わが国で大学生の基礎学力低下が叫ばれて久しいのですが、これを解決する努力は様々な形で行われております。その一つが、情報技術

(IT) を利用したeラーニングであり、これに取り組む教員を支援するために、サイバーキャンパスの構築、研究・教育コンテンツ共有化のために必要な各種事業が、私立大学情報教育協会等の指導の下で進められています。他方、ITは着実に学生たちの日常に入り込んでいます。学生たちは、

授業で情報処理センターを利用するほかにも、授業の空き時間ともなれば、インターネットを利用して様々なホームページにアクセスしたり、電子メールを送受信するために、PCの空きを待って、情報処理センターの入口で行列を作る状態です。

そのような中、本学において、2004年4月から教学系と事務系のネットワーク全体を管理・運営する部局として「情報システム部」が新設されたことに伴い、教学部門を担当する情報処理センターもその組織の一部に組み入れられました。従来は、教育・研究をIT面からサポートする役割を担っていた情報処理センターも、教職員・学生がITを日常生活の中で当たり前のように利用する今日、ネットワーク環境の整備から個人のネットワーク機器のサポートに至る幅広い役割を期待されるようになっております。こうした期待に応えるため、IT機器、各種ソフトウェアの整備に尽力するだけでなく、情報処理センター所属の教職員一同が、各自のスキルアップをはかっていく必要があります。これによって、「ユビキタス・ネットワーク社会」に順応できる学生を多く社会に送り出すことができるでしょう。今後とも、本学情報処理センターに対する大学内外の関係者諸氏の変わらぬご支援・ご協力をお願いして、発刊の挨拶といたします。



3. 情報処理センターのシステム紹介と利用事例

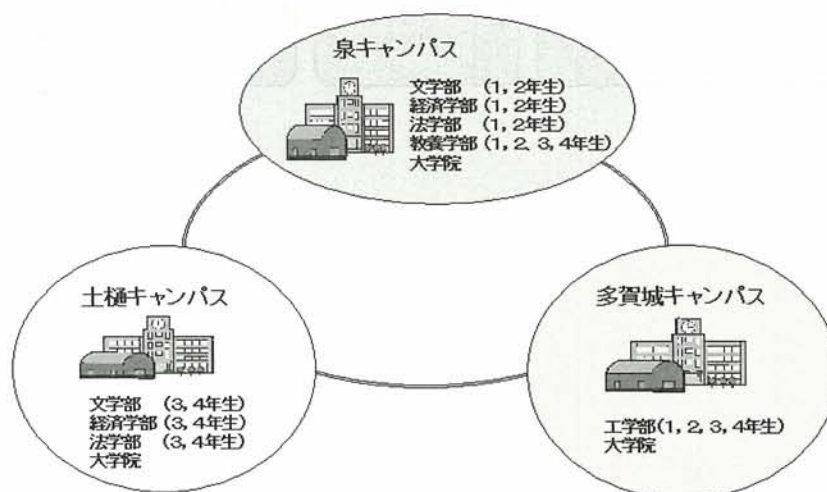
3.1 システムについて

東北学院大学は、土樋キャンパス、泉キャンパス、多賀城キャンパスの3つのキャンパスに分かれています。それぞれのキャンパスには、学生の教育や教員の研究を支援するための情報処理センターが設置されています。これら3つの情報処理センターのコンピュータシステムは各キャンパスに所属する学部・学科の教育と研究を支援することを目的にシステムを構築し運用してきました。しかし、最近の急速なIT化の波は教育現場にも押し寄せ、従来にはなかったいろいろな機能が要求されるようになってきました。特に、教育へのインターネットの活用、コンピュータリテラシー教育など情報処理センターが支援する範囲が大きく変わってきました。

そこで、平成16年4月より3キャンパスの情報処理センターのシステムを同時に新しいコンピュータシステムに更新することにしました。従来情報処理センターのシステム仕様は別々に設計してきましたが、今回は3つの情報処理センターを学生や教員から一つの情報処理センターと認識できるように、ソフトウェア、利用法、運用管理などを可能な限り共通化するようにしました。さらに、各キャンパスに所属する学部・学科の教育に影響を与えないようにも考慮しました。このシステムの実現により、学生や教員はどのキャンパスの情報処理センターでも同じサービスを受けられるようになりました。さらに、ファイルサーバに保存したファイル類も、どのキャンパスからも参照・保存できるようになりました。また、電子メールについても、まったく同じ操作で電子メールの受信や送信ができるようになります。

このような考え方で構築された3つのキャンパスの情報処理センターのシステムについて紹介します。

東北学院大学の3つのキャンパス

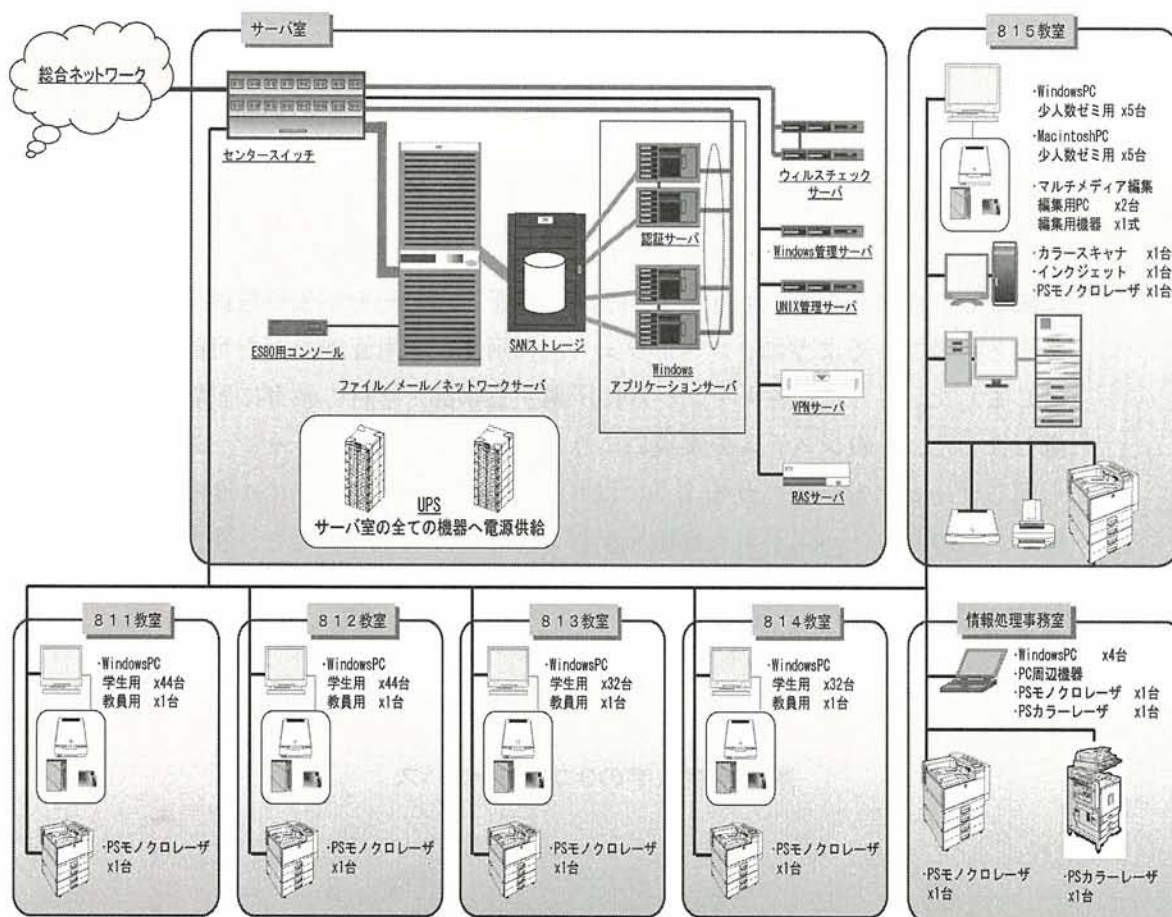


3.2 土樋情報処理センターのシステム紹介

土樋情報処理センターでは、文学部・経済学部・法学部に所属している昼間主コースの3・4年生と夜間主コースの全学年を主対象として、コンピュータリテラシー教育や各種アプリケーションを用いた実習、外国語教育等を支援しています。

平成16年4月に導入した新システムでは、自由度が高くかつ安定性も高い講義環境の提供を目指して最新技術を導入し、教員および学生にとって利用しやすいコンピュータシステム環境を実現しています。

(1) ハードウェア構成



(2) ソフトウェア構成

	811～814 教室	815 教室		
コンピュータ種別	WindowsPC (学生用 152 台、教員用 4 台)	WindowsPC (少人数ゼミ用 5 台)	MacintoshPC (少人数ゼミ用 5 台)	WindowsPC (マルチメディア編集用 2 台)
OS	WindowsXP Professional	WindowsXP Professional	MacOSX	WindowsXP Professional
ソフトウェア	MS Office2003 Professional 一太郎 2004 VisualStudio.net 2003 Java2SDK Acrobat 6.0 TeraTerm Pro TeraPad +Lhaca FFFTP JavaVM AntiVirus Corp 8.1 VMware Workstation WingNet 学生用 Z!stream HDD Keeper PhotoShop Elements 2 (教員用端末のみ) Wingnet 教員用 (教員用端末のみ)	MS Office2003 Professional 一太郎 2004 VisualStudio.net 2003 Java2SDK Acrobat 6.0 TeraTerm Pro TeraPad +Lhaca FFFTP JavaVM AntiVirus Corp 8.1 VMware Workstation WingNet 学生用 Z!stream HDD Keeper PageMaker 7.0 ILUstrator CS Mathematica 5 Homepage Builder V8 PhotoShop Elements 2	MS Office XP V.X PageMaker 7.0 Illustrator CS PhotoShopElements 2 Acrobat 6.0 NortonAntiVirus 8.0	AntiVirus Corp 8.1 HDD Keeper Premiere LE VMware Workstation

3.3 土樋情報処理センターの利用事例紹介

	講義名	対象学生
1	会計情報システム	経済学部 経営学科 (昼間主・夜間主コース) 3・4年 通年
2	商品学実習	経済学部 経営学科 (昼間主・夜間主コース) 3年 通年
3	地域情報学	文学部 史学科 3年
4	翻訳実践	文学部 英文学科 (夜間主コース) 3年 通年
5	演習一部	法学部 法律学科 3年 通年
6	ビジネスシミュレーション	経済学部 経営学科 3年
7	情報検索演習	文学部 英文学科・史学科 4年 前期・後期
8	情報メディアの活用	文学部 英文学科・史学科 3年 後期
9	基礎統計学	文学部 史学科 3年 後期
10	コンピュータ演習	文学部 英文学科 (夜間主コース) 1年 後期
11	コンピュータ演習	文学部 英文学科 (夜間主コース) 1年 後期

つぎに、各講義で利用しているソフトウェアや講義内容について説明します。

講 義 名：会計情報システム

対 象 学 生：経済学部 経営学科（昼間主・夜間主コース） 3・4年 通年

担当教員名：大森 國利（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel、 Microsoft Access

テーマ：

PCによる会計処理

講義内容・授業計画：

この授業では、パーソナル・コンピュータで用いられている表計算ソフトとデータベース・ソフトを会計システムの設計や財務分析に適用する方法などについて学習する。

前期：表計算ソフトによる会計処理

- * 各種関数（回帰分析、相関係数など）を利用した経営統計モデルの処理
- * 各種機能（ソルバー、ピボット・テーブル、ゴールシーク、シナリオ、正味現在価値関数、内部利益率関数など）を利用した経営意思決定モデルの処理
- * 表計算・グラフ作成機能を利用した財務諸表分析
- * 表計算機能を利用した行列簿記の処理
- * VBAを用いた行列簿記の仕訳データ入力

後期：データベース・ソフトによる会計処理

- * データベース・ソフトによるデータベースの構築と検索
- * サンプルデータベース（Northwind Trader）による各種検索
- * データベース・ソフトによる複式簿記の処理
- * 実体関連モデルによる会計処理（McCarthy モデル）

講 義 名：商品学実習

対 象 学 生：経済学部 経営学科（昼間主・夜間主コース） 3年 通年

担当教員名：斎藤 晋一（所属：経済学部）

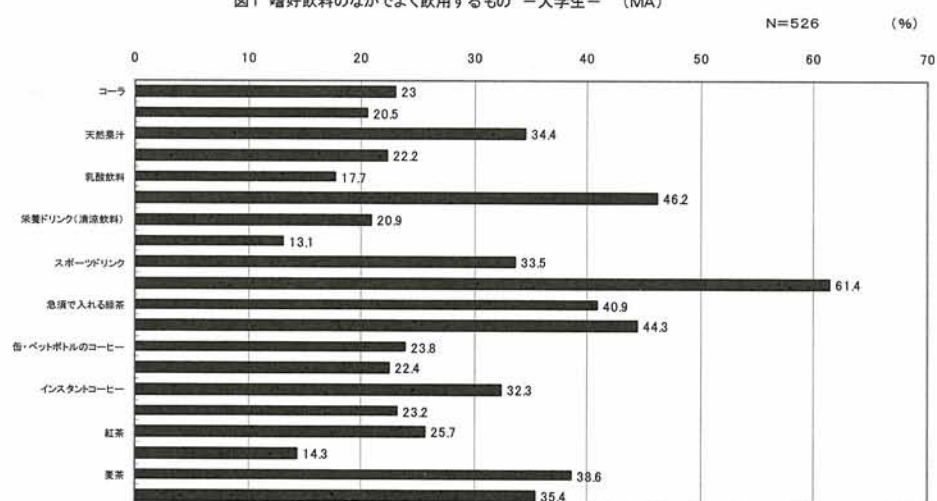
主な使用ソフトウェア：秀吉P r o 2 0 0 0

主な内容：

- (1) 市場調査の概要
- (2) 調査票の作成
- (3) 調査の実施
- (4) 計量分析（「秀吉P r o 2 0 0 0」を使用し、データ入力、集計、分析）
- (5) 報告書作成

	自分で行った	非常に難しい	性別	年齢	住まいについて
	MA	MA	SA	SA	SA
1	1,2,7,9,15,12	12	1	2	1
2	6,10,11,15,7	7	2	4	-
3	1,7,9	10,28	1	2	1
4	2,3,4,5,7,9	-	1	2	1
5	6,11,14,15,-	-	2	5	-
6	1,2,5,8,13,6,7	6,7	1	2	2
7	1,2,3,4,12,-	-	2	2	1
8	6,7,14,17	2	-	-	-
9	10,12,16,17	15	2	2	1
10	1,2,4,12,13	3,5,7,8,9,1	1	2	1
11	2,7,9,15	-	1	5	-

図1 嗜好飲料のなかでよく飲用するもの —大学生— (MA)



講 義 名：地域情報学
対 象 学 生：文学部 史学科 3 年
担当教員名：高野 岳彦（所属：文学部）
主な使用ソフトウェア： Excel, Mandara
本授業は、地域統計データを使った作表、計算、グラフ化、そして分布図作成という、地域研究で多用される一連のデータ分析の基本的な技能を身に付けさせることを目的としている。対象学生は、数値処理には不得手な文学部史学科の学生であり、授業の初回に行った Excel 技能についての調査でも、「ほとんど使えないので本授業で技能を身につけたい」という回答が過半を占めた。 授業の流れは、最初の 2 回が、地域研究の作法と統計データについての解説を普通講義室で行い、第 3 回目以降、情報処理室に移った。以後、前期は、Excel による作表と表計算の基本、簡単な比率や立地係数などの算出、そしてグラフ化へと進み、ここまでの応用課題を行わせて前期を終えた。応用課題では人口ピラミッドの作成に最初はノーヒント、次いで簡単なヒントを与えて挑戦させた。この間、使用した統計データは、国勢調査や人口動態統計などの地域分析ではおなじみのもので、そうした統計の性格、利用法、活用の有用性を実感してもらうこともまた重要と考えた。多くの学生は「地理学実習」も受講しており、その夏休みの巡検訪問先の統計を選択使用させて、できるだけ問題意識が深まようように工夫してみた。 後期は、GIS のフリーソフト「Mandara」をダウンロードさせて、日本の都道府県別、および東北各県の市町村別の分布図を描く技能を修得させ、これに前半 6 回分を費やした。後半では、これまでの表計算と作図の習得技能を前提として、農業統計、事業所統計、商業統計をそれぞれ利用した分布図や表・グラフの作成と、それらに表れた地域変化の背景を考察させる課題を与えて、単なる技能の習得から地域理解へと発展させるように努めた。 本授業を通して心がけたことは、表計算やグラフ化自体だけでなく、分析結果を見やすく整形する技能と美的センスも習得させることと、実際に 1 枚の A4 紙に適度な大きさに出力するための印刷体裁の技能を重視した点である。Mandara 図なども Word に貼り付けてレポートとして構成できるよう、すべて A4 大に収まるように構成して提出するように指定した。 もちろん習熟度の個人差は大きく、前期に 1 度、後期に 2 度の補修を行った。しかし全般的には、11 月に入る頃から整形技能を向上させる学生の割合が急増し、特に初心者が大半だった女子学生たちの技能の向上ぶりは顕著で、美的センスと熟達度の関連の有意さが伺われた。 いずれにせよ、数字とパソコンの不得手な文系学生には有用な授業であったと信じている。

講義名：翻訳実践
対象学生：文学部 英文学科 3年 通年
担当教員名： 箭川 修（所属：文学部）
主な使用ソフトウェア：Wingnet→Microsoft Word
テーマ： 翻訳技法演習 講義内容・講義計画： 英文和訳としての翻訳技法の習得を目指す。英文教材は、Roald Dahl, <i>Kiss Kiss</i>（高井・城戸編註、松柏社）。 授業の実践形態： Wingnet によって教材の配布、レポート管理を行なっている。 学生は各自のコンピュータのウインドウを上下に分割し、上方に配布された英文教材を表示し、下方で翻訳作業を行なう。翻訳は可能な限り前方から行なうという方針のもと、理解すべき部分を蛍光ペンによって色付けを行ないながら翻訳作業を進める。授業中、教員は Wingnet を通じて、学生に助言や添削を行なう。 授業終了時に当日の作業結果をレポートとして提出させるが、授業時間内に作業が完了しなかった学生は随時レポートを更新できる。

講 義 名：演習一部

対 象 学 生：法学部 法律学科 3年 通年

担当教員名：薮口 康夫（所属：大学院法務研究科）

主な使用ソフトウェア：Internet Explorer, MS-Excel, MS-Word, MS-Power Point, WingNet

講義内容：民事紛争処理の疑似体験とその方法論の習得

学校の友人のいじめで自殺した中学生の両親が、いじめた同級生や、いじめを見て見ぬふりをした同級生・その親を相手取って法的責任を追及したいとの相談を弁護士に行ったという、仮設の事件を用い、法律の専門家として、この事件にどのように関わっていくかを疑似体験した。その過程で、必要な法情報（法令・判例・その他社会に起きている出来事）を調べ・議論を構築する能力を身につけることを目標とした。

主な内容：

- (1) ネットワーク時代の法学と法実務
- (2) 法律専門家の作業の概観
- (3) 高度情報化時代の恩恵と留意点
- (4) 事実の整理と分析——法律専門家の作業（1）——
- (5) 仮想の事例——あるいじめ事件——
- (6) 弁護士との相談——両親の切実な訴えに法は何ができるだろうか——
- (7) 法情報調査の原則——法律専門家の作業（2）——
- (8) スタディ・スキルズ
- (9) リーガル・スキルズ (legal skills)
- (10) 議論の構築(1):原告側の主張と訴状
- (11) 議論の構築(2):被告側の反論と答弁書
- (12) 裁判外での議論・アドバイス
- (13) 具体的事件処理から理論的考察へ
- (14) 論文の設計図を引く
- (15) 資料の整理と批判的分析

使用した教科書：加賀山茂・松浦好治編著『法情報学 ——ネットワーク時代の法学入門〔第2版〕——』（有斐閣・2002年）

講 義 名：情報検索演習
対 象 学 生：文学部 英文学科・史学科（昼間コース）4 年 前期・後期
担当教員名：石垣 久四郎（所属：文学部）
主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel / Word, Internet Explorer, Java2SDK WingNet , HTML, テキストエディタ
<テーマ> コンピュータ及び情報ネットワークシステムの概要、データベースの概念及び情報検索システムの基礎、情報検索技法の実践と Web プログラミング演習について、講義と演習を通じてコンピュータ及び情報ネットワークによる情報検索システムの知識を修得する。 <講義内容と計画> 図書館情報学の基礎知識として、コンピュータの基本構成・処理動作・情報表現・プログラミング・情報処理、コンピュータネットワークとインターネットの概要、データベースの概念と情報検索システムの概要・構成と検索技法、Web プログラミングについて、講義と演習を行う。 講義は、以下のようなスケジュールで行う。 第 1 週から第 6 週までは、講義室で講義内容全体についてを講ずる。 第 7 週から最終週までは、情報処理センターにおいてネットワークシステム配下のパーソナルコンピュータ（端末）を使って、以下の演習と実習を行う。 (1) ブラウザ Internet Explorer と Microsoft Word を使って、インターネット上に存在する様々な情報サーバにアクセスして、情報検索の実践、及びと検索結果の評価と利活用としてのレポート作成編集処理の実習を行う。また、毎週検索演習課題を提示し、演習結果についてのレポートを作成して、提出することを課す。 (2) HTML、Java2SDK、テキストエディタを使って、情報発信のための Web プログラミングの演習と実習を行う。

講 義 名：情報メディアの活用
対 象 学 生：文学部英文学科 3 年、史学科 3 年 後期
担当教員名：石垣 久四郎（所属：文学部）
主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel / Word, Internet Explorer, Java2SDK, HTML, テキストエディタ, WingNet
<テーマ> 高度情報社会の浸透と同時に学校図書館を取り巻く環境は、コンピュータのデジタル技術の飛躍的な進展によって文字、映像、音声を統合して扱えるマルチメディアという新しい情報メディアと高度情報通信技術のインターネットの活用が学校教育に導入され、学校図書館の活用機能は多種多様化へと変革しており、教育の情報化が進展している。 本講義では、このような教育環境下における学校図書館司書教諭を目指す受講生が児童生徒に対し、高度情報通信機能がもたらす不安定な情報の氾濫の中で情報の真偽、正確さを判断、評価するための知識を教育することができる「情報リテラシー」教育の修得をねらいとする。 <講義内容と計画> 本講義の内容は、(1)学校教育と情報社会、(2)情報メディアの系譜とその現在、(3)多様なメディアの利用、(4)学校図書館とコンピュータ、(5)電子図書館と学校図書館(6) 学校図書館と著作権、(7)情報検索の基礎、(8)データベースの概念とデータベースの作成法・利用法、(9)インターネットの仕組み、(10)インターネットプログラミングの仕組みと作成、(11)学校図書館と著作権について、講義と演習・実習を行う。 講義は、以下のスケジュールで行う。 第 1 週から第 6 週までは、講義室で講義内容全体について講ずる。 第 7 週から最終週までは、情報処理センターにおいてネットワークシステム配下のパーソナルコンピュータ（端末）を使って以下の演習と実習を行う。 (1) ブラウザ Internet Explorer と Microsoft Word を使って、インターネット上に存在する様々な情報サーバにアクセスして、情報検索の実践、及びと検索結果の評価と利活用としてのレポート作成編集処理の実習を行う。また、検索演習課題を提示し、演習結果についてのレポートを作成して、提出することを課す。 (2) Microsoft Excel を使って、関係型データベース作成の実習を行う。 (3) HTML、Java2SDK、テキストエディタを使って、情報発信のための Web プログラミングの実習を行う。

講 義 名：基礎統計学

対 象 学 生：文学部 史学科（昼間主）1・2年 後期

担当教員名：岡安 隆照（所属：文学部）

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel

講義内容：統計的手法の基礎理論, Excel によるデータ解析の方法, 統計学的な研究の結果のプレゼンテーションの技術, など, について学ぶ.

主な内容:

- (1) 統計学の目的と理念
- (2) カイ 2 乗分布などの, 頻出する分布
- (3) データの記述法
- (4) Excel によるパラメータの推定と, 帰無仮説の検定
- (5) 統計学的な研究の結果の効果的なプレゼンテーションなど.

講 義 名：コンピュータ演習
対 象 学 生：文学部英文学科（夜間主）1年 後期
担当教員名：大野 芳希（所属：文学部）
主な使用ソフトウェア：Word, Excel
講義内容：情報処理の基礎を、ワープロ、表計算などの実習を通じて学ぶ。 主な内容：（1）コンピュータの基本操作 （2）インターネットと電子メールの実習 （3）Word による日本語ワープロ入門と応用 （4）Excel による表計算とグラフ作成入門 （5）簡単なホームページの作成

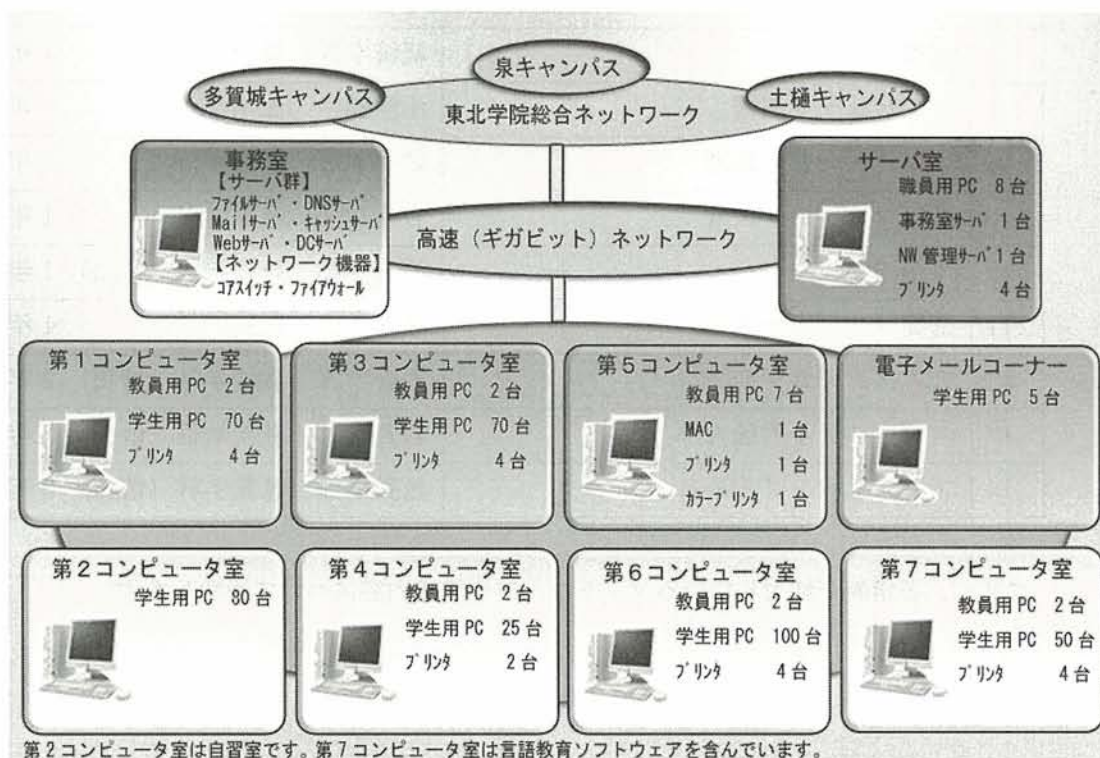
講 義 名：コンピュータ演習 対 象 学 生：文学部 英文学科 （夜間主） 1 年 後期
担当教員名：小野 静（所属：文学部）
主な使用ソフトウェア：MicrosofrWord、Excel、Powerpoint、メモ帳
<テーマ> コンピュータ演習 <講義内容> 現代社会は生活全般でコンピュータ、インターネット、IT 等との関わりを避けられなくなっ てきています。ネットワークの基礎知識の習得は現代社会で必須です。 コンピュータで発信した情報はどこへ行き、どんな形を取り、どんな利便性、どんな危険と 出会いどのように宛先に届くのか。またどんな保護があり、充分なのか、不十分なのかなど、 安心して利用できる環境か否かも考えていきたいです。 これを理解した上で実際にコンピュータを使いコンテンツの作成をします。表現を各自企画 でき、独創的な成果物を生み出して欲しいです。レポートとしてわかり易くまとめあげるこ とに力を注ぎたいです。 <授業計画> 1. ワードで各種の表記法、機能を知り、利用 2. 表計算でデータ処理、計算、グラフ 3. ネット上でデータを探して、データ処理、統計処理、グラフ表示などデータのあれこれを 習得するように 4. 簡単なデータベースの学習 5. ホームページを作る 6. 簡単なプログラムを作る Visual Basic の入門

3.4 泉情報処理センターのシステム紹介

泉情報処理センターでは、文学部・経済学部・法学部・教養学部の1・2年生の情報処理入門教育と、教養学部の3・4年生と大学院人間情報学研究科の専門的な教育を支援することを主な目的としています。特に、1・2年生を対象とした情報処理入門教育の支援を重視しています。そのための独自のソフトウェア起動メニュー画面を設計・開発し採用するなど、初心者の多い講義においても、円滑な講義が行われるように様々な配慮をしています。

平成16年4月から稼働をはじめた新システムでは、マルチメディア等の先端技術を導入して、多様な情報を扱える良質で高度な多人数教育にも対応するコンピュータシステム環境を実現しています。

(1) ハードウェア構成



ソフトウェア構成

共通	Microsoft Office 2003 Professional TeraPad Ver0.85 Visual Studio .NET 2003 Boland C++ Ver5.5 Java2 Platform Standard Edition Ver1.4.2_03 99Basic Ver1.1.9 Active Perl Ver5.8.2 PHP Ver4.3.4 DrScheme Ver206p1 SPSS Ver12.0J R Ver1.8.1	Adobe Photoshop Elements Ver2.0 G.CREW8 Plus Shade 7 Basic Math Type Ver5.0 Maxima Ver5.9.0 Touch Typing Trainer MySQL Ver4.0.17 Internet Explorer Ver6.0 Active! mail 2003 IBM ホームページビルダー Ver8.0 FFFTP Ver1.92	Tera Term Pro Ver2.3 Turbo Linux 10 desktop Adobe Acrobat 6.0 Standard Adobe Premiere LE (教員用のみ) Quick Time Ver6.4 RealPlayer10.5 Windows Media Player Ver9.0 +Lhaca Ver0.72 SKY MENU Pro Ver5.0 EDU Symantec AntiVirus Corporate Edition Korean Writer V (第5,7コンピュータ室のみ) Chinese Writer7 (第5,7コンピュータ室のみ)
教材作成	一太郎 2004 StarSite7 Absoft Pro Fortran for Windows コンパルトスター統合版 15 リッチ・テキスト・コンバータ 2003 MPEG 自由自在 表 OCR/文書 OCR for Excel&Word v5.0	The Graphics for Windows Internet basic internet スクレモ INSTANT COPY V3.0 新英和・和英中時点 V3.0 広辞苑第五版 Jエックス9 カ国語セレクト 3 FileMakerPro6J	Visio 2003 Professional ViaVoice for Windows Pro V10 Microsoft Office vX:mac NortonAntiVirus for Macintosh Ver9.0 EGWORD13 Creative Suite Premium J MAC

3.5 泉情報処理センターの利用事例紹介

	講義名	対象学生
1	コンピュータ演習	文学部 英文学科 1年 前期
2	基礎統計学／統計学	文学部 キリスト教学科 1年 後期
		文学部 英文学科 2年 後期
		文学部 史学科 3年 後期
3	コンピュータ演習	文学部 史学科 1年 後期
		文学部 キリスト教学科 1年 後期
4	総合演習	経済学部 経営学科 2年 後期
5	基礎演習	経済学部 経営学科 1年 後期
6	情報リテラシー	経済学部 経済学科 1年 通年
7	コンピュータ演習	法学部 法律学科 1年 半期
8	コンピュータと論理	教養学部 教養学科 2年 後期
9	基礎コンピュータA	教養学部 教養学科 1年 前期
10	英語演習	教養学部 教養学科（言語） 1年 通年
11	基礎コンピュータB	教養学部 教養学科 1年 後期
12	プログラミング初級	教養学部 教養学科（情報） 2年 前期
13	マルチメディア論A	教養学部 教養学科（情報） 3年 前期
14	プログラミング言語B	教養学部 教養学科（情報） 3年 後期

つぎに、各講義で利用しているソフトウェアや講義内容について説明します。

講 義 名： コンピュータ演習 対 象 学 生： L1
担当教員名： 菅原 研
主な使用ソフトウェア： Word, Excel, PowerPoint
講義内容 文書作成や表計算などコンピュータの基本的な使い方を学習する。 主な内容 (1) Word による日本語文書作成の基本演習 基本操作や編集の仕方などを一通り演習した後、提出課題として「サークルの新入生勧誘ポスター」を作成する。 (2) Excel による表計算・グラフ作成の基本演習 表の作り方やグラフの作成などの基本操作を一通り演習した後、提出課題として「仮想会社の営業部売上表とグラフ」を作成する。 (3) PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本演習 絵や文字の入力の仕方、アニメーション機能の使い方などの基本操作を一通り演習し、提出課題として「自分の町の紹介プレゼンテーション資料」を作成する。 (4) インターネットの仕組みと HTML の基礎 まずインターネットの仕組みについて概略を学習し、次に HTML レベルできわめてシンプルなホームページを記述する。これらを通して、ホームページの仕組みについての理解を深める。

講義名：基礎統計学/ 統計学

対象学生：XB1, L2 (泉), H3 (土樋)/ 旧 XC1 (泉), 共に後期

担当教員名：岡 安 隆 照

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel

講義内容

統計的手法の基礎理論, Excel によるデータ解析の方法, 統計学的な研究の結果のプレゼンテーションの技術, など, について学ぶ

主な内容

- (1) 統計学の目的と理念
- (2) カイ 2 乗分布などの, 頻出する分布
- (3) データの記述法
- (4) Excel によるパラメータの推定と, 帰無仮説の検定
- (5) 統計学的な研究の結果の効果的なプレゼンテーションなど.

講 義 名： コンピュータ演習

対 象 学 生： 文学部史学科、初学教科 1 年 後期

担当教員名：坪田博明

主な使用ソフトウェア：Word,Excel

講義内容

Word,Excel を用いて、文書作成、図形作成と操作の基礎、表計算とグラフ表示、データベースの利用方法を習得し、更に、VBA を用いて簡単なプログラミングの知識と技術を学習する。

主な内容

- (1) Word を用いて、文書作成の基礎
- (2) 作図と図形操作
- (3) Excel を用いて、表計算と図表作成
- (4) データベースの作成と利用方法
- (5) 簡単なマクロの利用
- (6) VBA による簡単なプログラミング

講義名：総合演習

対象学生：経済学部経営学科2年 後期

担当教員名：大森国利（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア：Visual Basic.NET

講義内容

VBを用いて画面設計を行い、GUIとオブジェクト指向設計の一端を学習する。

主な内容

- (1) Label, Button, PictureBoxなどのコントロールとプロパティの使用方法
 - (2) イベントハンドラ作成のためのコードエディタの使用方法
 - (3) コード入力で使用する Basic 言語の使用方法
- (例示) 身長と体重を InputBox から入力し、BMI 方式で計算・判定する



```
Public Class Form1
    Inherits System.Windows.Forms.Form

    Windows フォーム デザイナで生成されたコード
    Dim a, b, c As String
    Dim d As Single

    Private Sub Button1_Click(ByVal sender As System.Object, ByVal e As System.EventArgs) Handles But
        a = "身長を入力して下さい"
        b = InputBox$(a)
        a = "体重を入力して下さい"
        c = InputBox$(a)
        d = Val(c) / Val(b / 100) / Val(b / 100)
        If d > 28.4 Then
            Label1.ForeColor = Color.Red
            Label1.Text = "肥満です"
        ElseIf d >= 24.2 And d <= 28.4 Then
            Label1.ForeColor = Color.Pink
            Label1.Text = "太り気味です"
        ElseIf d >= 19.8 And d <= 24.2 Then
            Label1.ForeColor = Color.Green
            Label1.Text = "正常です"
        Else
            Label1.ForeColor = Color.Blue
            Label1.Text = "痩せてます"
        End If
        Label2.Text = Val(b / 100) * Val(b / 100) * 22
    End Sub

    Private Sub Button2_Click(ByVal sender As System.Object, ByVal e As System.EventArgs) Handles But
        End
    End Sub
End Class
```

講義名：基礎演習

対象学生：経済学部経営学科1年 後期

担当教員名：谷内正文 (所属：経済学部)

主な使用ソフトウェア：Excel

講義内容

Excelを用いて、統計手法（分散分析、回帰分析など）の使い方を学習する。

主な内容

主な内容（分散分析の手続）

(1) データ

	A	B	C	
1		百貨店	スーパー	コンビニ
2	駅前	12	9	
3		11	10	
4		13	8	
5	駅近郊	5	6	
6		4	5	
7		6	4	
8	郊外	4	7	

(3) 結果の整理

P	Q	R	S	
平均	百貨店	スーパー	コンビニ	一般
駅前	12	9	12	
駅近郊	5	5	8	
郊外	4	7	7	
全体	7	7	9	

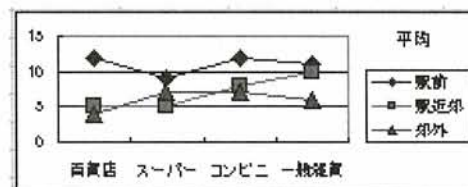
主効果および交互作用				
交互作用	百貨店	スーパー	コンビニ	一般
駅前	2	-1	0	
駅近郊	-1	-1	0	
郊外	-1	2	0	
主効果	-1	-1	1	

(2) Excel 分析ツールの利用

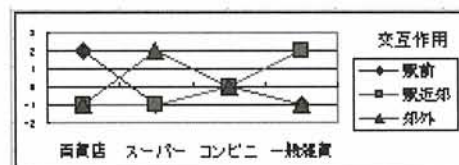
H	I	J	K	L
分散分析：繰り返しのある二元配置				
概要	百貨店	スーパー	コンビニ	一般
駅前				
標本数	3	3	3	3
合計	36	27	36	33
平均	12	9	12	11
分散	1	1	1	1
駅近郊				
標本数	3	3	3	3
合計	15	15	24	30

(4) 作図

(5) 解釈



駅前が平均的に全ての業態でよい。
郊外はスーパーを除いて立地としてよくない。



線が交差している → 交互作用効果を示す
百貨店は駅前、スーパーは郊外、一般雑貨は駅近郊と相性？

教科書： 穴沢務『Excel で学ぶ経営科学入門シリーズⅢ データ解析』実教出版

講 義 名： 情報リテラシー

対 象 学 生： 経済学部経済学科1年 通年

担当教員名： 佐藤 健

主な使用ソフトウェア：MS-Excel, MS-Word, MS-PowerPoint, Internet Explorer

講義内容

情報リテラシーとは情報を活用する能力のことをさします。この講義では「情報の収集」、「情報の分析」、「情報の判断」、そして「情報の伝達」といった4つのテーマについて学習します。

「情報の収集」では、インターネットを利用した情報検索や、図書データベースを利用した図書検索などを通して、いかにして自分が必要な情報を入手するかという手法について学習します。また、インターネットを利用していく上で必要となる基礎知識や情報倫理、セキュリティなどの現状についてもふれ、正しく、安全にインターネットを利用していくための基礎についても学習します。

「情報の分析」では様々な統計データをもとに、グラフの作成、基本統計量の計算、回帰分析などを通して、数字からだけでは見えてこない様々な特徴、傾向を定量的に分析する手法について学習します。

「情報の判断」では分析した情報がどのようなことを物語っているのかを定量的、客観的に判断する手法について学習します。

「情報の伝達」では各自取り組んだ課題を個人のホームページ上で公開することで、情報を発信する立場での作業や考え方について学習します。

以上の学習の集大成として、後期はグループでの演習を行ないます。グループ演習では、身近に存在する様々な疑問点からテーマを選定し、そのテーマに関する様々な情報を収集し、分析し、判断し、最後にプレゼンテーション形式で発表を行ないます。

講義では単なるコンピュータの使い方だけではなく、コンピュータを利用して情報をいかに活用するかという点を重点的に学習します。

講義名：コンピュータ演習（旧コンピュータ入門演習）

対象学生：法学部 法律学科 1年 半期

担当教員名：早坂 明夫

主な使用ソフトウェア：MS-OFFICE2000Professional (Word,Excel)

Internet Explorer,ActiveMail、99Basic

講義内容：

コンピュータを日常的に利用するために必要なコンピュータ操作の基礎知識と応用ソフトウェアの利用技術を習得させる。

主な内容：

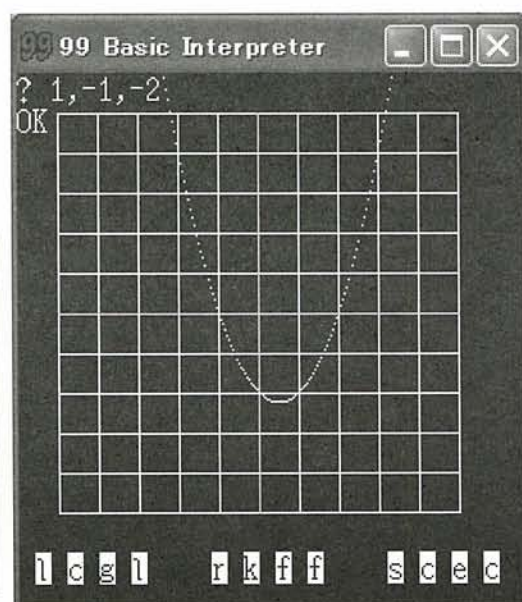
- (1) MS-WORD を用いて、数式を含む文章を書いたりコンピュータシステムの構成図を描く。
- (2) MS-EXCEL を用いて、テスト結果のデータより平均、標準偏差値やさらに個々の生徒の偏差値などの成績処理をする。
- (3) Internet Explorer を用いて、Web サイトから教師が指示した課題（コンピュータの発達に発展に貢献した先人の業績など）について調べ、レポートを書く。
- (4) ActiveMail を用いて、友人間でのメール交換や（3）で描いたレポートを添付書類として教官に提出する。
- (5) 99Basic を用いて、2 次方程式の解を求めるプログラムや2 次方程式のグラフを描画するプログラムを作成する。



```
99 99 Basic Interpreter
list
10 CLS 3
20 '二次方程式の解
30 INPUT A,B,C
40 D=B*B-4*A*C
50 IF D<0 THEN PRINT"(虚根で解なし)":GOTO 100
60 IF D=0 THEN PRINT "x=";-B/(2*A);"(重根)":GOTO 100

70 PRINT "(実根)"
80 PRINT "x1=";(-B+SQR(D))/(2*A)
90 PRINT "x2=";(-B-SQR(D))/(2*A)
100 END

loa chd got lis run key fil fil sav cls edi con
```



講 義 名： コンピュータと論理

対 象 学 生： 教養学部 2 年生後期

担当教員名： 乙藤 岳志(所属: 教養学部)

主な使用ソフトウェア： Dr Scheme

講義内容: 情報量, 情報処理などコンピュータ内部での動作を概念的に講義する
アルゴリズムの実際を Scheme を用いて体験する

主な内容:

前半の講義内容

情報量, 情報の表現, コンピュータの構成, インターネット

後半の実習内容:

プログラムに触れたことのない学生を対象に, アルゴリズムの実際を Scheme を用いて体験させる. プログラム本体は, 肝心なところを穴埋めする形式をとり, アルゴリズムにのみ集中させるように行う.

扱った内容:

階乗の計算, べき乗の計算, ハノイの塔, おつりの出し方, Eliza など

講 義 名： 基礎コンピュータ A
対 象 学 生： 教養学部 1 年前期
担当教員名： 高橋光一
主な使用ソフトウェア： Word、Mathtype、十進 BASIC
講義内容 ワードプロセッサソフト（Microsoft 社 Word）、数式整形ソフト（DesignScience 社 Mathtype）を用い、文書作成の基本と簡単な応用を学習する。また、BASIC を用い描画することで、プログラミングの意味を学習する。 主な内容 (1) 日本語文書作成（数式も含む） (2) BASIC プログラミング (3) インターネット

講義名： 英語演習
対象学生： 言語1年

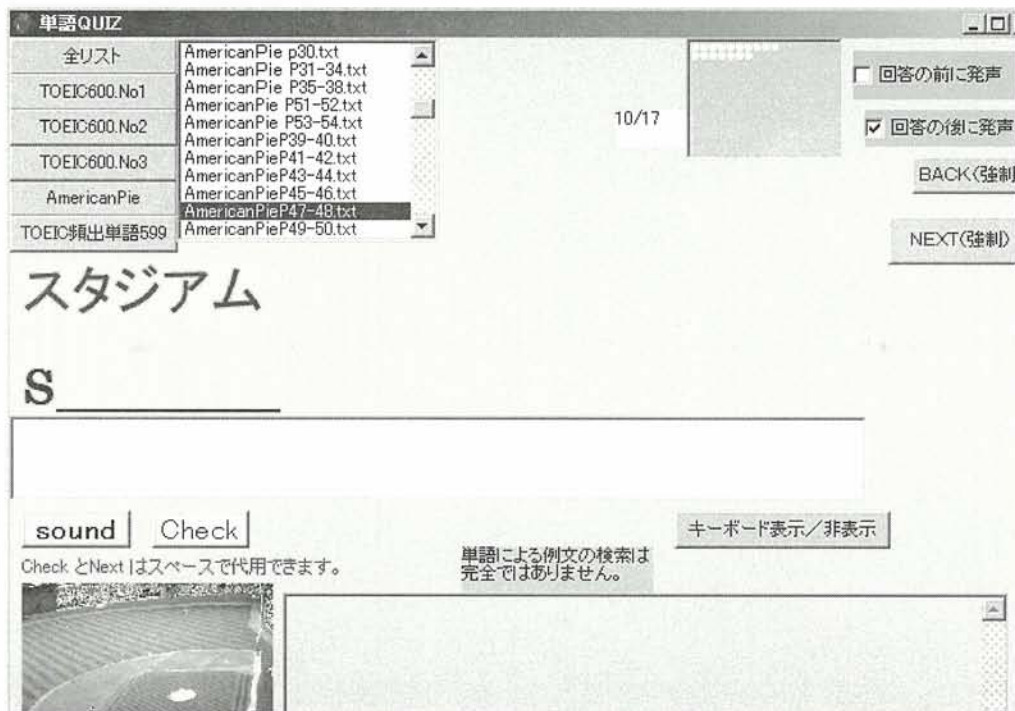
担当教員名： 風斗 博之

主な使用ソフトウェア： VB6、VB・Net

この授業では、VBで作成したマルチメディア教材を利用し、英語の資格試験であるTOEICのスコアアップを目標に英語力の養成をおこなった。

「TOEICまるごと模試600」というTOEICの模擬問題集をテキストとして使用した。学生は毎回の授業に先立って1パートずつ問題を解き、答えあわせをしておく。授業ではまずそのパートのスコアをコンピュータを通して報告させ、次に単語の記憶練習や聞き取り練習などをさせた。単語の記憶練習ではテキスト以外に音声、画像も使い、記憶しやすいように配慮した。聞き取りの練習は必要なところを何度でも繰り返し聞くことができる点で大変効果があったと思う。前期は音素識別練習、VOAの読解練習なども行った。期末テストもほとんどはコンピュータ上でテストを行った。5月と12の2回、カレッジTOEICを受験させたが、平均スコアは約50点上昇した。

次年度では、100円ショップで売られている英会話の例文CDなども購入させて、スクリーン上の文を見ながら（あるいは伏せながら）聞き取り練習ができるような使い方を検討している。



講 義 名： 基礎コンピュータ B
対 象 学 生： 教養学部 1 年 後期
担当教員名：大野 芳希（非常勤講師）
主な使用ソフトウェア：Excel
講義内容： 統計学の簡単な内容と分析手法を、Excel をもちいた表計算の実習を通じて理解する。 主な内容： (1) Excel を使うための基本操作 (2) Excel による表計算 (3) グラフの作成 (4) データの並べ替え、条件のあったデータの抽出 (5) 度数分布表による 1 次元のデータの整理、分析 (6) 代表値と散布度の理解と計算 (7) 2 次元データの整理、分析 (8) 相関係数の理解と計算 (9) マクロとユーザー定義関数

講 義 名：プログラミング初級

対 象 学 生：教養学部 教養学科 情報科学専攻 2年 前期

担当教員名：松澤 茂（所属：教養学部教養学科情報科学専攻）

主な使用ソフトウェア：Ultra-C（インタープリタ） 、Microsoft Word

講義内容：

この講義では、まず処理手順を記述する流れ図の書き方、読み方を学習する。基本的な処理手順が理解できたら、具体的にプログラミング言語として、C言語を用いてプログラムを作成するための基礎とC言語の基本的な文法について説明する。

この講義は週2コマ（連続）となっているので、前半で文法の説明、後半で文法の機能を確認するためのプログラミング実習となっている。

この講義でインタープリター型の Ultra-C を用いているのは、エラーなどが発生した場合、エラーの箇所の命令文を明確に知らせてくれるためである。このことは、学生が新しいプログラム言語を学習するときの大きな手助けとなっていると考えられる。

この講義では、以下に示す文法とプログラミング技術を講義している。

- (1) データの型と基本的な入出力関数
- (2) 式と演算子
- (3) 流れる制御
- (4) 関数の基本とプログラム構造
- (5) 配列の使い方
- (6) 文字列処理
- (7) まとめ

講義名：マルチメディア論 A

対象学生：教養学部 情報学科 3年 前期

担当教員名：早坂 明夫

主な使用ソフトウェア：ホームページ・ビルダー

講義内容：

人間の考えは何らかのメディア（媒体）を用いてしか他の人間に伝える事ができない。本講義ではコンピュータにおける映像・音声の取り扱い技術を習得し、自分の大学を紹介する CM 映像作品を制作することを通して、マルチメディア機能の本質を理解する。

主な内容：

- (1) アクセサリのペイントツールを用いて、静止画を描く。
- (2) ホームページ・ビルダーのアニメーション作成ソフトを用いて、複数の静止画から簡単な動画を作成する。
- (3) テレビ CM 作品を題材として、その製作のねらいや映像・音情報の構成分析する。
- (4) 各自が製作しようとする作品のシナリオを創作する。
- (5) 各自が創作したシナリオに沿って、デジタルカメラを用い、必要な映像素材や音素材を収集する。
- (6) ホームページ・ビルダーのビデオ映像編集ソフトを用いて、作品を完成させる。



講 義 名：プログラミング言語B

対 象 学 生：教養学部 教養学科 情報科学専攻 3年 後期

担当教員名：松澤 茂（所属：教養学部教養学科情報科学専攻）

主な使用ソフトウェア：JDK、Microsoft Word

講義内容：

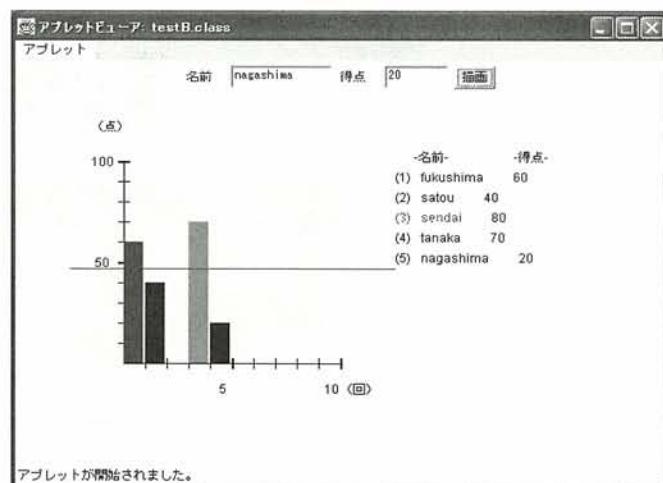
この講義では、Webプログラミングの知識と技術を習得することを目的としている。Webプログラミングのツールとしては多くのものが存在するが、もっとも基本的なツールであるJavaを用いることにした。Javaのプログラミング技法の中のアプレットプログラミングを中心に講義を進めることにしている。

講義の最終課題は各自が自分でテーマを考え、そのテーマに挑戦することになる。ただし、そのテーマは「小学校の分数と割合を教える」といった、何かを支援することに限定している。

講義では、Javaの基本的な文法を説明するが、受講生はC言語に関する高度なプログラミング技術を1，2年生のプログラミングに関する講義で取得しているので、Javaの特徴的な機能を中心に解説することになっている。

以下の実行結果は、得点の棒グラフ表示と平均点の表示を描画したものである（点数は記入窓か入力する）。

- (1) javaの基本
- (2) 変数
- (3) 式と演算子
- (4) 制御の流れ
- (5) 配列の処理
- (6) クラスの基本
- (7) イベント処理
- (8) ファイルの処理
- (9) グラフィックス処理
- (10) まとめ



3.6 多賀城情報処理センターのシステム紹介

多賀城情報処理センターでは平成16年4月にシステム更新が実施され、「多賀城情報処理センターシステム2004」として新システムが稼動しています。

本システムは、次の3つのシステムで構成されており、多賀城キャンパスの情報教育、研究に寄与することを目的として、利用者の利便性、教育効果、研究活動支援に考慮したシステムとなっています。

(1) 教育用システム

工学部各学科の教育方針を網羅し、各学科の情報教育に寄与するため、基礎教育から応用教育までをカバーし、学部1年生から研究科大学院生まで、幅広い利用者によって活用できるシステムです。

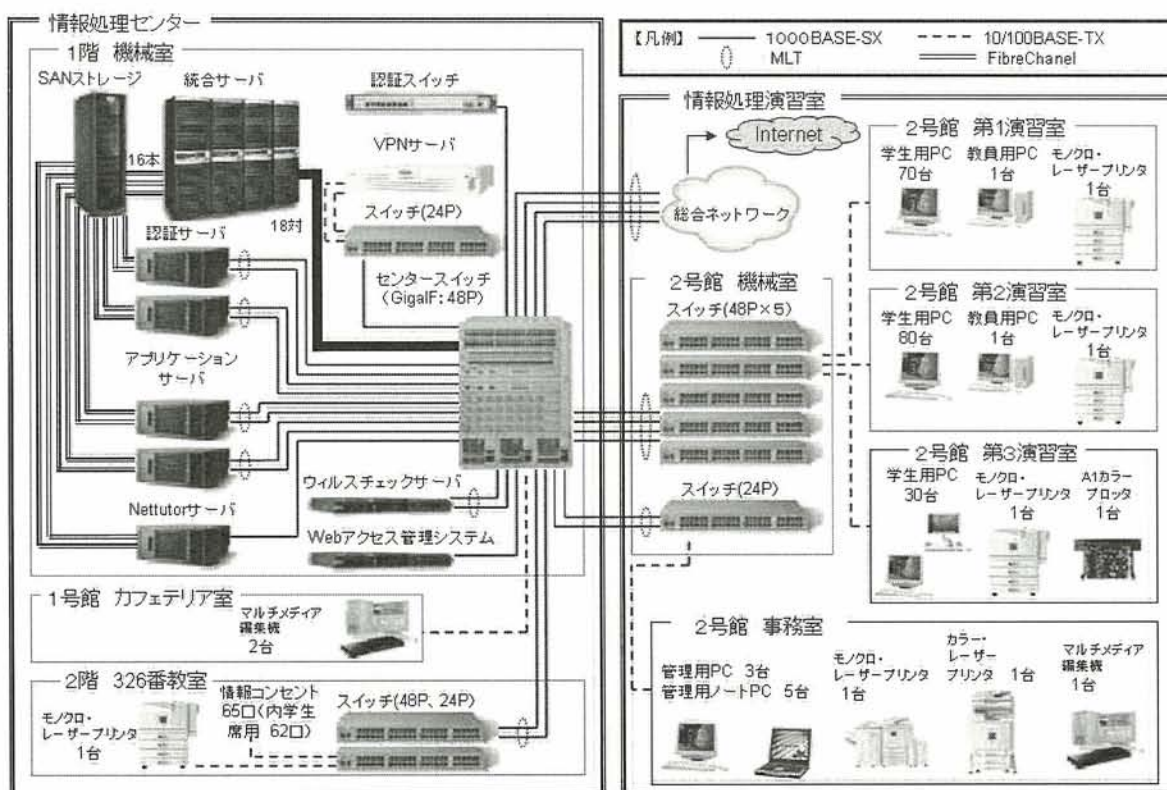
(2) 研究用システム

主に工学部各学科4年生の卒業研究、大学院生の専門的な研究及び教員のより専門的な研究に活用できる、高速な処理能力と利便性を兼ね備え、高度なプログラム処理や解析処理を実現するシステムです。

(3) 多賀城キャンパスネットワークサービスシステム

キャンパス内のネットワークサービス（ホームページのホスティングサービスやプロキシサービス等）を、高速かつ高い安定性を堅持して提供するシステムです。

(1) ハードウェア構成



(2) ソフトウェア構成

	第1 演習室	第2 演習室	第3 演習室
コンピュータ種別	WindowsPC		MacintoshPC
OS	Windows XP Professional		MacOS X
ソフトウェア	Microsoft Office2003 Professional Edition (Word, Excel, PowerPoint, Access) Microsoft Visual Studio .NET Pro Autodesk AutoCAD 2005 HULINKS SigmaPlot 8.0 WolframResearch Mathematica 5.0 Cybernet MATLAB 6.5.1 Symantec AntiVirus 8.1 Workstation VMware Workstation 4.5 for Windows ASTEC ASTEC-X 4.2 OpenOffice Adobe Adobe Reader 7.0 TeraPad SunMicrosystems Java2 JDK pTex 3.1.2 Win32 版 NTT-jTex 1.9.1 TeraTERM Pro + TTssh +Lhaca FFFTP	(左記ソフトウェア以外に) Adobe Acrobat 6.0 Pro Adobe Photoshop Elements2 Adobe illustrator CS Adobe Premiere 6. MathType	Microsoft Office:X for Mac (Word, Excel, PowerPoint,) HULINKS KaleidaGraph

3.7 多賀城情報処理センターの利用事例紹介

	講義名	対象学生
1	コンピュータ基礎	工学部 機械創成工学科 1年 前期
2	電子計算機	工学部 機械創成工学科 2年 前期
3	数値材料工学	工学部 機械創成工学科 3年 前期
4	コンピュータ基礎	工学部 電気情報工学科 1年 前期
5	情報科学基礎演習	工学部 電気情報工学科 1年 通年
6	数値解析法	工学部 電気情報工学科 2年 前期
7	コンピュータ基礎	工学部 物理情報工学科 1年 前期
8	情報科学基礎	工学部 物理情報工学科 1年 後期
9	情報社会と情報倫理	工学部 電気・物理情報 1年 後期
10	情報処理工学	工学部 物理情報工学科 2年 後期
11	コンピュータ基礎	工学部 環境土木工学科 1年 後期
12	プログラミング演習	工学部 環境土木工学科 2年 後期
13	CAD 演習	工学部 環境土木工学科 3年 前期
14	教科教育研究 I	工学部 電気・物理情報 3年 前期
15	教科教育研究 III	工学部 電気・物理情報 3年 後期
16	衝撃圧接における化合物層の生成過程	教員研究テーマ
17	三相同期機の固定子巻線の 1 相地絡故障に対する保護方式の検討	教員研究テーマ

つぎに、各講義、研究で利用しているソフトウェアや講義内容、研究内容について説明します。

講 義 名：コンピュータ基礎

対 象 学 生：工学部 機械創成工学科 1年 前期

担当教員名：佐藤 彰、鈴木 利夫、伊達 秀文、小野 憲文（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：Internet Explorer、Active!mail、MS-Office、ASTEC-X

<講義目的>

教養教育科目の1つとして、コンピュータ・リテラシーを体得することを目的とし、また、フレッシュマンセミナーで活用するために、第3週目までに電子メールおよびインターネットに関する基本操作について学ぶ。

<到達目標>

コンピュータによる文書作成、電子メールによる情報の交換、インターネット検索、プログラミングの初歩など基本的な操作方法を習得し、他の科目履修での応用ができるようにする。

<授業内容>

- 第1回 端末機の基本操作（ログイン，ログアウトの仕方など）
- 第2回 インターネットの接続方法および掲示板の使い方
- 第3回 電子メールの利用および印刷などの各種環境設定
- 第4回 インターネットを利用した情報収集
- 第5回 ワードプロソフトの利用
- 第6回 表計算ソフトの利用
- 第7回 ワードプロ・表計算ソフトの組み合わせとその応用
- 第8回 プレゼンテーションソフトの利用
- 第9回 プログラミング言語の導入
- 第10回 整数と実数の計算
- 第11回 条件判断
- 第12回 繰り返し計算1
- 第13回 繰り返し計算2
- 第14回 関数計算
- 第15回 試験

講 義 名：電子計算機
対 象 学 生：工学部 機械創成工学科 2年 前期
担当教員名：梅津 実（非常勤講師）
主な使用ソフトウェア：ASTEC-X（Tru64UNIX）
<講義目的> C 言語によるプログラムの作成を通して、簡単な計算を実行できるように、基礎事項を講義します。 <到達目標> C 言語の文法の基礎事項と、数値計算に必要な簡単なアルゴリズムを理解し、それに基づいて、正確な計算結果を出力する、簡単なプログラムを作成し、実行できること。 <授業内容> 第1回～第3回 簡単な代数方程式を例にとって、解の求め方や組み立て除法などの解説をし、それらを実行するためのC言語のプログラムの例を述べる。 第4回～第6回 ある関数をより簡単な関数で近似し、たとえばその関数の定積分を計算するなどの、簡単な計算をするC言語のプログラムの例を述べる。 第7回～第9回 行列についての乗法や、行の入れ替えなどの簡単な操作や計算手順の復習をし、それらを実行するためのC言語のプログラム例を述べる。 第10回～第13回 簡単な工学の問題に出てくるような常微分方程式を、ルンゲ-クッタ法等の数値計算で解く方法についての短い解説をし、その計算のためのC言語によるプログラムについて述べる。

講 義 名：数値材料工学

対 象 学 生：工学部 機械創成工学科 3年 前期

担当教員名：伊達 秀文（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：ASTEC-X (Tru64UNIX)

<講義目的>

これまで学んできた、材料力学、材料工学の知識を活かしながら、変形している物体の内部の応力分布やひずみ分布を差分法や有限要素法による数値解析法を用いて求め、材料力学、材料工学の知識を深めながら数値解析法の手法を学ぶ。

<到達目標>

解析的には解けない簡単な微分方程式を差分法により解く技法を身に付けると共に、既存の有限要素法プログラムを用いて平面応力、平面ひずみの問題を解析し、スキルとしての有限要素法を理解する。

<授業内容>

- 第1回 数値材料工学の概要と講義の方針
- 第2回 FORTRAN の復習 1
- 第3回 FORTRAN の復習 2
- 第4回 差分法の基礎
- 第5回 差分法のプログラム
- 第6回 差分法によるたわみの微分方程式の解法 1
- 第7回 差分法によるたわみの微分方程式の解法 2
- 第8回 有限要素法の基礎 1
- 第9回 有限要素法の基礎 2
- 第10回 有限要素法の基礎 3
- 第11回 有限要素法プログラムの説明 1
- 第12回 有限要素法プログラムの説明
- 第13回 データの作成
- 第14回 結果の整理
- 第15回 試 験

講 義 名：コンピュータ基礎

対 象 学 生：工学部 電気情報工学科 1年 前期

担当教員名：宮澤 正樹、大場 佳文（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：VMware、ASTEC-X、IE、Active!mail、OpenOffice

<講義目的>

コンピュータのしくみについて学ぶと共に、文書作成ツールや表計算ツールなどの実習を行い、道具としてのコンピュータを体験してもらいます。

<到達目標>

コンピュータのしくみの理解や専門用語の習得。それから、今後必要となってくるであろうアプリケーションソフトやツールの操作なども習得する。

<授業内容>

- 第1回 講義の内容と KNOPPIX について
- 第2回 コンピュータのしくみ
- 第3回 オペレーティングシステム(OS)
- 第4回 エディタと電子メール
- 第5回 LaTeXによる美文書作成の実習（その1）
- 第6回 LaTeXによる美文書作成の実習（その2）
- 第7回 LaTeXによる美文書作成の実習（課題作成）
- 第8回 calcによる表計算の実習（その1）
- 第9回 calcによる表計算の実習（その2）
- 第10回 calcによる表計算の実習（課題作成）
- 第11回 ホームページの作成（その1）
- 第12回 ホームページの作成（その2）
- 第13回 ホームページの作成（課題作成）
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

講 義 名：情報科学基礎演習

対 象 学 生：工学部 電気情報工学科 1年 通年

担当教員名：芳賀 昭、宮澤 正樹（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：VMware (KNOPPIX)

<講義目的>

本講義は、計算機を1人1台使用し、情報処理の基本となる”ハードウェア”及び”ソフトウェア”の概念を学ぶと共に、プログラミング言語のひとつである”C言語”を使用し、プログラミング（特に数値計算）において必要となる”アルゴリズム”の考え方について学習する。さらに、C言語を用いた計測・制御機器等の制御方法にも触れる。

<到達目標>

”ハードウェア”と”ソフトウェア”の基本的な概念を理解することと、C言語の文法を習得し、基本的なプログラムを作成できるようになること。

<授業内容>

前期

第1回 KNOPPIXの使い方

第2回 ハードウェアとソフトウェア

第3回 エディタの使い方（実習を含む）

第4回 ファイル編集コマンドの演習とエディタの操作練習（実習を含む）

第5・6回 テキストの表示（その1・その2）（実習を含む）

第7・8回 変数・四則演算（その1・その2）（実習を含む）

第9・10回 if文（その1・その2）（実習を含む）

第11・12回 switch文（その1・その2）（実習を含む）

第13・14回 while文（その1・その2）（実習を含む）

第15回 総合実習

後期

第1・2回 for文（その1・その2）（実習を含む）

第3・4回 配列（その1・その2）（実習を含む）

第5・6回 関数（その1・その2）（実習を含む）

第7・8回 ポインタ（その1・その2）（実習を含む）

第9・10回 構造体（その1・その2）（実習を含む）

第11回 ファイル処理（実習を含む）

第12・13回 初歩的な数値計算法（その1・その2）（実習を含む）

第14回 計測機器等の制御方法の基礎（実習を含む）

第15回 総合実習

講 義 名：数値解析法

対 象 学 生：工学部 電気情報工学科 2年 前期

担当教員名：芳賀 昭、神永 正博（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：C コンパイラ、Excel

<講義目的>

工学的な問題を数値的に解く基本的手法を習得する。

<到達目標>

プログラミングの言語のひとつである“C言語”を用い、電磁気学や電気回路理論の問題を例題として、基本的な数値解析の手法を習得する。

講義は情報処理演習室でプログラミングの演習を行いながら進める。

<授業内容>

第1回 メールの使用方法

C言語によるプログラムの基礎

第2回 LCR直列共振回路の計算とグラフ

第3回 最大消費電力条件の数値計算とグラフ

第4回 クーロンの法則を用いた電界の数値計算

第5回 ビオサバールの法則を用いた磁界の数値計算

第6回 関数の最大値

第7回 平均値と標準偏差

第8回 乱数の発生と散布図

第9回 乱数の応用ーモンテカルロ法

第10回 相関係数

第11回 ニュートン法

第12回 数値積分

第13回 フーリエ級数

第14回 まとめ

第15回 試験

講 義 名：コンピュータ基礎

対 象 学 生：工学部 物理情報工学科 1年 前期

担当教員名：淡野 照義（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：Internet Explorer、Active!mail、Microsoft Office、UNIX

<講義目的>

理系の学生がコンピュータを道具として扱うために必要な技術と資質を習得する。

<到達目標>

- 1) 基本的な情報リテラシ（Web とメールの利用、オフィスアプリケーションの利用、HTML の初歩、ネット利用のマナー）を習得する。
- 2) UNIX における基本的なリテラシ（基本コマンド、エディタ操作、ファイル操作）を習得する。
- 3) 基本的な技術用アプリケーションの操作を習得する。

<授業内容>

- 第1回 ガイダンスと Knoppix 操作
- 第2回 Web 操作と情報検索
- 第3回 電子メール
- 第4回 情報倫理
- 第5回 オフィスアプリケーション操作（文書）
- 第6回 オフィスアプリケーション操作（表計算）
- 第7回 オフィスアプリケーション操作（作図）
- 第8回 オフィスアプリケーション操作（データベース）
- 第9回 オフィスアプリケーション操作（プレゼンテーション）
- 第10回 技術用アプリケーション操作（数式処理）
- 第11回 UNIX 1（UNIX 入門）
- 第12回 UNIX 2（基本コマンド）
- 第13回 UNIX 3（エディタ）
- 第14回 UNIX 4（応用コマンド）
- 第15回 総合演習（Web ページ作成）

講 義 名：情報科学基礎

対 象 学 生：工学部 物理情報工学科 1年 後期

担当教員名：岩本 正敏（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：Tru64UNIX、PowerPoint

<講義目的>

情報科学について具体的な例題を示し解説する。理解を深めるためにC言語によるプログラミングによる演習をおこなう。

<到達目標>

コンピュータプログラミングに関する基礎を理解する。

<授業内容>

- 第1回 C言語プログラミングの基礎
- 第2回 プログラムの実行までの流れ
- 第3回 変数操作
- 第3回 変数値のトレース
- 第4回 処理の流れ
- 第5回 構造化プログラミングの基礎
- 第6回 制御構造 逐次、分岐構造
- 第7回 制御構造 繰り返し構造
- 第8回 データの型と演算
- 第9回 関数宣言
- 第10回 仮引数、実引数
- 第11回 大域変数、局所変数
- 第13回 配列（1）
- 第14回 配列（2）
- 第15回 まとめ

講 義 名：情報社会と情報倫理

対 象 学 生：工学部 電気情報工学科、物理情報工学科 1年 後期

担当教員名：岩本 正敏（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：PowerPoint

<講義目的>

インターネットの大衆化により、個人が発信する情報が個人や社会に与える影響は年々大きくなっている。情報化社会の発展には、情報を扱う個々人の倫理的規範や規律の確立が求められる。本講座では情報社会の現状と今後のあるべき姿について議論し倫理や規律について考察する。

<到達目標>

情報社会の特質を理解し、そこで情報を適切に活用できる資質を身につける。

<授業内容>

- 第1回 情報社会とは（1）社会の大きな変化
- 第2回 情報社会とは（2）コンピュータ利用技術の変遷
- 第3回 インターネットの歴史（1）
- 第4回 インターネットの歴史（2）
- 第5回 インターネットの影響
- 第6回 3つの大量死について
- 第7回 グローバル化と地域
- 第8回 個人情報の保護
- 第8回 社会の再組織化
- 第9回 連携のネットワークと共生のネットワーク
- 第10回 情報の共有と公開
- 第11回 初等中等教育における情報教育
- 第12回 開かれた学校。情報社会に参画する態度
- 第13回 シビックアントレプレナー、NPO・NGOの働き
- 第14回 情報と法律
- 第15回 まとめ

講 義 名：情報処理工学
対 象 学 生：工学部 物理情報工学科 2年 後期
担当教員名：岩本 正敏（所属：工学部）
主な使用ソフトウェア：Tru64UNIX、PowerPoint
<講義目的> コンピュータ利用技術の変遷とそれらの基礎技術について説明する。 <到達目標> アプリケーション開発に必要なプログラミング技術を演習する。 <授業内容> 第1回 コンピュータ利用技術の変遷 第2回 コンピュータ利用技術の変遷 第3回 コンピュータ利用技術の変遷 第4回 インターネットとマルチメディア 第5回 インターネットとマルチメディア 第6回 アプリケーションプログラム開発の基礎技術 第7回 正規表現によるマッチング 第8回 正規表現によるマッチング 第9回 再帰関数呼び出しと繰り返し制御構造 第10回 再帰関数呼び出し 第11回 抽象化データ構造 第12回 自己参照型データ構造 第13回 リスト構造 第14回 動的メモリ割付 第15回 課題

講 義 名：コンピュータ基礎

対 象 学 生：工学部 環境土木工学科 1年 後期

担当教員名：中沢 正利、武田 三弘（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：InternetExplorer、Active!mail、Tru64UNIX

<講義目的>

今後ますます加速する情報化時代への対応として、コンピュータリテラシとしての端末操作方法および、コンピュータ利用の基礎であるプログラム作成法を学習する。

<到達目標>

コンピュータの原理に関する基礎知識、メール、文章作成、表計算の習得および、プログラムの作成能力を習得する。

<授業内容>

- 第1回 工学におけるコンピュータ利用の重要性 (Introduction)
- 第2回 コンピュータの仕組み (mechanism of computer)
- 第3回 オペレーティングシステム (OS:Operating System)
- 第4回 ログイン・ログアウト (login, logout)
- 第5回 UNIX 実習 (how to use UNIX)
- 第6回 テキストエディタの実習 (how to use Text Editor)
- 第7回 E-mail 実習 (how to use E-mail)
- 第8回 Internet 実習 (how to use Internet)
- 第9回 表計算、図化、数値処理ソフト概説 (how to use various Applications)
- 第10回 プログラム言語概説 (Introduction of programming languages)
- 第11回 プログラミング演習 (programming exercises)
- 第12回 プログラミング演習 (programming exercises)
- 第13回 プログラミング演習 (programming exercises)
- 第14回 プログラミング演習 (programming exercises)
- 第15回 試験 (examination)

講 義 名：プログラミング演習

対 象 学 生：工学部 環境土木工学科 2年 後期

担当教員名：石川 雅美（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：Tru64UNIX

<講義目的>

「コンピュータ基礎」および「基礎数値解析演習」で身につけた数値計算法の基礎知識を用いて、具体的な土木工学関連問題をコンピュータによって解くためのプログラミング手法を学ぶ。

<到達目標>

与えられた問題を、コンピュータプログラムを作成して解くことができるようになること。

<授業内容>

- 第1回 Windows 環境と Unix 環境
- 第2回 エディタとメールソフトの使い方
- 第3回 UNIX の基本コマンドおよびコンパイルコマンド
- 第4回 Fortran90 の概要と変数の型
- 第5回 組込み関数と数値関数
- 第6回 DO 構文
- 第7回 繰り返しと判断 (IF 構文、CASE 文))
- 第8回 配列
- 第9回 行列演算
- 第10回 最小二乗法によるデータ回帰プログラム
- 第11回 関数副プログラムと数値積分
- 第12回 サブルーチン副プログラム 1
- 第13回 サブルーチン副プログラム 2
- 第14回 入出力と宣言 (ファイルの利用)
- 第15回 試験

講義名：CAD 演習

対象学生：工学部 環境土木工学科 3年 前期

担当教員名：中沢 正利（所属：工学部）

主な使用ソフトウェア：AutoCAD

<講義目的>

コンピュータによる設計・製図は CAD (Computer Aided Design) と呼ばれ、建設業界における設計・製図業務に幅広く利用されている。この講義では、CAD の基本概念及びその基本的利用技術の習得を目的とする。

<到達目標>

3年後期の設計製図、4年次の就職活動においても必要不可欠なスキルであり、これらに対応できる基本的作図手法を習得する。つまり、製図図面が CAD で描けるようになること。

<授業内容>

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 CAD の基本概念 I
- 第3回 基本図形作画 I
- 第4回 基本図形作画 II
- 第5回 図形編集 I
- 第6回 図形編集 II
- 第7回 ハッチング・文字・寸法線
- 第8回 図面レイアウト
- 第9回 2次元図面総合演習 I
- 第10回 2次元図面総合演習 II
- 第11回 属性情報操作 I
- 第12回 属性情報操作 II
- 第13回 図面管理・3次元図形基礎
- 第14回 総合演習 I
- 第15回 総合演習 II

講 義 名：教科教育研究Ⅰ（情報）

対 象 学 生：工学部 電気情報工学科、物理情報工学科 3年 前期

担当教員名：井口 巖（非常勤講師）

主な使用ソフトウェア：Word、IE、PowerPoint、Excel 他

<講義目的>

高等学校普通教科「情報」の教育目標、内容、指導方法について、教壇に立ち指導するための基本的知識の講義と、まだ始まったばかりの教科であることから授業内容の調査方法、模擬授業の実施を行っている。他教科の履修関係から、年度ごとの履修者の数が激変するため、授業の展開に苦労している。

<課題1> 「高等学校普通教科情報とは」

最初の課題である。文部省の学習指導要領とその解説本を基本に、インターネット、書籍を中心に調査しワープロで A4 版用紙 1 枚にまとめ報告する。互いに調べた報告書を共有フォルダに入れることで、相互に調査した内容を共有する経験をしてもらう。各々の報告書を相互に見合いながら、普通教科情報の種類、時間数、特徴についてテストを実施する。

<課題2> 「高等学校普通教科情報のお勧め指導案」

概要を課題1で把握したのち、インターネット上で公開されている情報の指導案を調査し、お勧めの指導案を Web ファイルとして報告する。Web ファイルは、タグである程度構築されたテキスト形式のテンプレートを準備し、各々がメモ帳で内容を書き加えタグを操作して、個性あふれる Web ファイルとして提出してもらう。この段階では、指導案を見て、どのようなものであれば役に立つかを調べながら学習する。これにより模擬授業の準備をする。これらも共有フォルダに格納し、目次ページも作成し、データを共有する。人数によってはプレゼンテーションを実施する場合もある。

<課題3> 「高等学校普通教科情報30分模擬授業」

課題1と2を通して、学んだことを元に、事前・事後調査票を作り、1人またはTT（チームティーチング）による授業指導案を作成する。実際に授業を実施して、これらの資料を基に報告書を作成する。

これらの経験により、対象は学生であるが、一連の授業計画の流れを、情報機器を活用しながら体験することになっている。

講義名：教科教育研究Ⅲ（情報）
対象学生：工学部 電気情報工学科、物理情報工学科 3年 後期
担当教員名：井口 巖（非常勤講師）
主な使用ソフトウェア：Word、IE、PowerPoint、Excel 他
<講義目的> 高等学校専門教科「情報」の教育内容について調査し、理解を深め、発表する経験を持ち、授業改善の技法を身につけることを目標にしている。他教科の履修関係から、年度ごとの履修者の数が激変するため、授業の展開に苦労している。 <課題1> 「高等学校専門教科情報とは」 教科教育研究Ⅰと同様に、各自調査し、A4版1枚で報告する。報告書は共有しあう。普通教科情報と専門教科情報の違い、分野による教授内容の違い、を質問・確認する。 <課題2・3> 「専門教科情報の教授内容について」調査と発表 専門教科情報の10項目「情報産業と社会」、「情報と表現」「アルゴリズム」「モデル化とシミュレーション」「情報システムの開発」「ネットワークシステム」「コンピュータデザイン」「図形と画像の処理」「マルチメディア表現」をそれぞれ2名から3名で担当し調査しプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーション（発表）はA4版1枚のハンドアウトを作成し、IEまたはPowerPointによるプレゼンを実施する。これらは、すべて共有フォルダで互いの資料を共有する。聴衆は、必ず一人1個の質問を聞きながら準備することを義務としている。 発表者は、出された質問中から答えることができるものを選び解答する。 これらの準備のなかから、それぞれの項目について理解を深め、情報の収集、加工、表現のサイクルを数回体験し、多くの人の前でプレゼンテーションする経験をふかめてもらう。 最後に1年間で経験し、共有した資料を持ち帰り今後の資料としてもらうことにしている。

研 究 名：衝撃圧接における化合物層の生成過程

研 究 分 野：衝撃工学、材料工学

担当教員名：機械創成工学科 教授 伊達 秀文

主な使用ソフトウェア：DEC FORTRAN

研究内容：

衝撃圧接はプロジェクトイルの運動エネルギーを変形のエネルギーに変換したことによる熱エネルギー利用した異種材料間の接合技術である。衝撃圧接は類似の接合方法である爆発圧接と異なり、接合界面に化合物が生成され、その化合物層が接合継ぎ手効率に大きな影響をもつ事が実験から明らかにされている。

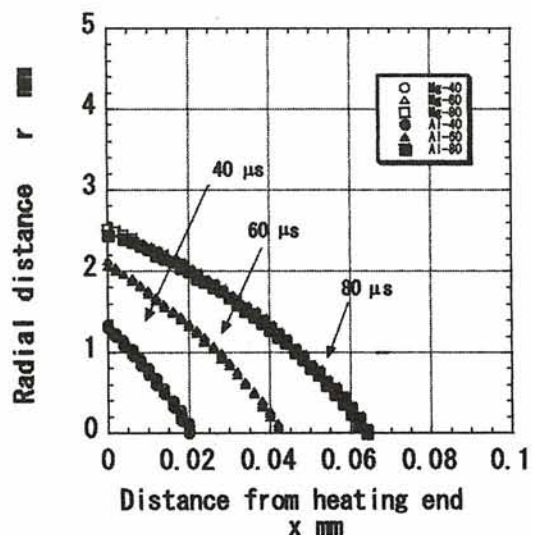
そこで、本研究では化合物層の生成と成長の過程を移動境界質問題と捕らえ、数値解析によりその生成過程を明らかにし実験結果との比較によりその妥当性を示した。解析に用いた基礎式は以下の通りである。

$$\int_{r_{i,j}^k}^{r_{i,j}^{k+1}} c\rho^* dT = \frac{\Delta t}{\Delta r^2} \left(\int_{r_{i,j}^k}^{r_{i+1,j}^k} \lambda dT + \int_{r_{i,j}^k}^{r_{i,j}^{k+1}} \lambda dT \right) + \frac{\Delta t}{2i\Delta r^2} \left(\int_{r_{i,j}^k}^{r_{i+1,j}^k} \lambda dT - \int_{r_{i,j}^k}^{r_{i,j}^{k+1}} \lambda dT \right) + \frac{\Delta t}{\Delta z^2} \left(\int_{r_{i,j}^k}^{r_{i,j+1}^k} \lambda dT + \int_{r_{i,j}^k}^{r_{i,j-1}^k} \lambda dT \right) \quad (1)$$

ここで、 $c\rho$ 、 $c\rho^*$ 、 $L\rho$ の関係は次の通りである。

$$\int_{r_1}^{r_2} c\rho^* dT = L\rho + \int_{r_1}^{r_2} c\rho dT \quad (2)$$

アルミニウムとマグネシウムを対象に行った数値解析の結果を右に示す。いずれかの金属も熱特性が類似していることから融解領域の成長も類似していることが分かる。



研 究 名：三相同期機の固定子巻線の1相地絡故障に対する保護方式の検討

研 究 分 野：電力系統の安全性に関する研究

担当教員名：電機情報工学科 教授 宮澤 正樹

主な使用ソフトウェア：Fortran

研究内容：

三相同期機の電機子内部故障に対する保護は、現行では、故障が発生したら遮断器によって故障機を系統から切り離すことが行われている。この方法では、故障発生時点から保護が行われるまでに多少の時間が経過することは避けられず、この間電機子巻線の故障点から大きな故障電流が流出して巻線の故障箇所における損傷を大きくするとともに、時としては回転子鉄心の損傷を生ずる欠陥がある。また、故障機の切り離しは系統状態に無関係に行われるので、故障機の容量が大きい場合には系統にサージが起こる。さらに、故障の検出は故障巻線の中性点側および出力端子側における線電流の差によるが、この差は故障点の位置と故障アドミタンスの関数であるから、故障検出がつねに鋭敏・確実に出来るとは限らない。

筆者は、従来の対象座標法を用いて、三相同期機の電機子内部故障現象を解析し、新しい保護方式について検討した。この保護方式は、被保護機の零相分を系統周波数（50Hz）で共振させて保護する方式（零相保護方式）である。たとえば、電機子巻線の任意点において、1相地絡故障の発生時に故障点から巻線外に流出する地絡電流は零となる。

今回、Fortran を用いて零相保護理論の数値計算を行い、3kVA、200Vの三相同期発電機を用いて、電機子巻線の1相地絡故障の実験により故障電流をほぼ零にすることを確認し、この理論の有効性を検証することが出来た。今後、さらに検討していきたい。

4. 情報処理センター報告（平成 16 年度データ）

4.1 利用状況報告

4.1.1 登録者数

本項では、各センターに関わる主要なデータを取りまとめています。

各情報処理センターで実際に利用可能な対象者数を表しています。

土樋情報処理センターでは文・経済・法学部学生全員のアカウントと、それ以外に利用申請を受けた学生のアカウントを登録しています。

泉情報処理センターでは教養学部学生全員のアカウントと、それ以外に利用申請を受けた学生のアカウントを登録しています。

多賀城情報処理センターでは工学部学生全員と、それ以外に利用申請を受けた学生のアカウントを教育用システムに登録しており、これとは別に研究用システムの利用希望者については別途申請を受けて別アカウントとして登録しています。

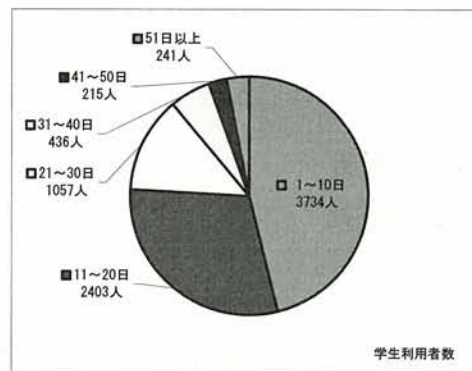
		学生 (院生含む)	教職員	合計
土樋情報処理センター		9449	368	9817
泉情報処理センター		5224	261	5485
多賀城情報処理センター	教育用	2526	158	3106
	研究用	614		

4.1.2 利用者状況

3 キャンパス情報処理センターの利用状況

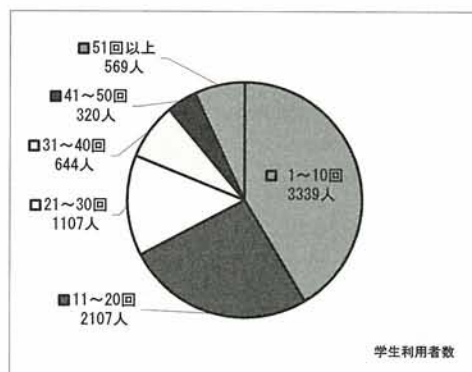
1) 利用日数別（10月～3月）

利用日数	学生利用者数
1～10日	3734人
11～20日	2403人
21～30日	1057人
31～40日	436人
41～50日	215人
51日以上	241人
51～60日	121人
61～60日	52人
71～60日	40人
81～60日	15人
91～60日	7人
101日以上	6人
合計	8086人



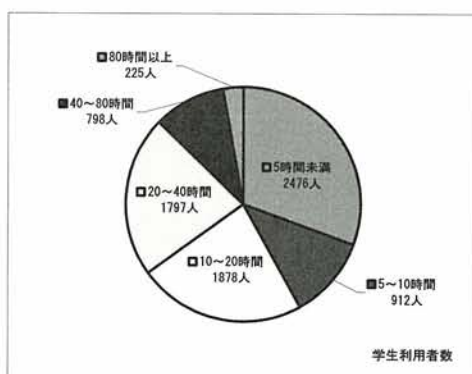
2) 利用回数別（10月～3月）

利用回数	学生利用者数
1～10回	3339人
11～20回	2107人
21～30回	1107人
31～40回	644人
41～50回	320人
51回以上	569人
51～60回	212人
61～70回	118人
71～80回	75人
81～90回	45人
91～100回	30人
100～200回	86人
201回以上	3人
合計	8086人



3) 利用時間別（10月～3月）

利用時間	学生利用者数
5時間未満	2476人
5～10時間	912人
10～20時間	1878人
20～40時間	1797人
40～80時間	798人
80時間以上	225人
80～160時間	198人
160～320時間	25人
320時間以上	2人
合計	8086人



※ 本年度は前期にデータ欠損期間があるため後期（10月～3月）のみ掲載しております。

※ 3 キャンパス情報処理センターの利用者数を集計して算出しております。

4.1.3 授業科目名

(1) 土樋キャンパス情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
会計情報システム	大森 國利	経営	3	142
会計情報システム	大森 國利	経営（夜間主）	3	86
法情報調査	菊地雄介・藪口康夫・高木龍一郎	法務研究	大学院 1	57
演習二部	高木 龍一郎	法律	4	23
地域情報学	高野 岳彦	史	3	75
英語 I	遠竹 譲	英文（夜間主）	1	62
演習 I	遠竹 譲	英文（夜間主）	3	6
演習 II	遠竹 譲	英文（夜間主）	3	6
翻訳実践	箭川 修	英文（夜間主）	3	11
演習一部	藪口 康夫	法律	3	3
演習二部	藪口 康夫	法律	4	11
演習	アレイ, W	経済	3	21
経済モデルシミュレーション	菊地 登志子	経済	3	55
経済モデルシミュレーション	菊地 登志子	経済（夜間主）	3	1
管理会計論	佐々木 郁子	経営	3	74
管理会計論	佐々木 郁子	経営	3	74
ビジネス・シミュレーション論	根市 一志	経営（夜間主）	3	9
情報検索演習	石垣 久四郎	英文・史	4	81
情報検索演習	石垣 久四郎	英文・史	4	91
情報リテラシー	岡崎 匡	経済（夜間主）	1	27
情報リテラシー	岡崎 匡	経済（夜間主）	1	28
コンピュータ科学	小野 静	英文（夜間主）	1	36
コンピュータ演習	小野 静	英文（夜間主）	1	32
情報リテラシー	佐々木 典彰	経済（夜間主）	1	15
情報リテラシー	佐々木 典彰	経済（夜間主）	1	30

(2) 泉キャンパス情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
コンピュータと情報処理Ⅱ	佐藤 昭治	教養（情報）	3	19
心理実験実習	櫻井 研三	教養（人間）	2	38
	櫻井 研三	教養（人間）	2	38
英語Ⅰ	陶久 利彦	法律	1	72
英語Ⅱ	遠竹 護	英文	2	31
	風斗 博之	経営	2	25
英語ⅠA	風斗 博之	経済	1	44
英語ⅠA	風斗 博之	経済	1	18
英語ⅠB	風斗 博之	経済	1	42
	風斗 博之	経営	1	39
コンピュータ演習	佐藤 昭治	法律	1	70
	佐藤 昭治	法律	1	64
	佐藤 昭治	基督・史	1	74
	早坂 明夫	法律	1	56
	早坂 明夫	法律	1	66
	早坂 明夫	基督・史	1	72
	小畑 征二郎	基督・史	1	68
	小畑 征二郎	英文	1	71
	坪田 博明	基督・史	1	70
	大野 芳希	法律	1	64
	菅原 研	英文	1	77
	菅原 研	英文	1	74
	高橋 光一	法律	1	61
	川田 徳明	英文	1	77
	川田 徳明	英文	1	77
基礎演習	谷内 正文	経営	1	13
総合演習	大森 國利	経営	2	47
	斎藤 晋一	経営	2	49
基礎コンピュータ A	中川 清和	教養	1	45
	高橋 光一	教養	1	66
	稲垣 忠	教養	1	72
	風斗 博之	教養	1	50
	門間 俊明	教養	1	34
基礎コンピュータ B	高橋 光一	教養	1	55
	中川 清和	教養	1	83

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
基礎コンピュータ B	稲垣 忠	教養	1	71
	大野 芳希	教養	1	57
プログラミング初級	松澤 茂	教養 (情報)	2	48
	松澤 茂	教養 (情報)	2	48
	佐藤 昭治	教養 (情報)	2	41
	佐藤 昭治	教養 (情報)	2	41
プログラミング中級	松澤 茂	教養 (情報)	2	42
	松澤 茂	教養 (情報)	2	42
	佐藤 昭治	教養 (情報)	2	38
	佐藤 昭治	教養 (情報)	2	38
プログラミング上級	佐藤 昭治	教養 (情報)	3	30
プログラミング言語 B	松澤 茂	教養 (情報)	3	43
コンピュータグラフィックス入門	渡部 敏	教養	2	60
	中川 清和	教養	2	86
コンピュータと論理	乙藤 岳志	教養	2	136
情報科学演習 A	松澤 茂	教養 (情報)	3	10
情報科学演習 B	松澤 茂	教養 (情報)	3	10
言語と情報処理	風斗 博之	教養	3	65
言語文化演習	風斗 博之	教養	3	6
英語演習	風斗 博之	教養 (言語)	1	49
情報リテラシー	大場 佳文	経済	1	68
	大場 佳文	経済	1	51
	糟谷 昌志	経済	1	47
	糟谷 昌志	経済	1	50
	佐藤 健	経済	1	60
	佐藤 健	経済	1	58
	菅原 良	経済	1	51
	菅原 良	経済	1	55
	パルデシ, P	経済	1	46
	菊地 登志子	経済	1	58
社会調査実習	谷田部 武男	教養 (人間)	2	36
	谷田部 武男	教養 (人間)	2	36
マルチメディアシステム論 A	早坂 明夫	教養 (情報)	3	30

(3) 多賀城キャンパス情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
コンピュータ基礎	佐藤 彰	機械創成工	1	152
コンピュータ基礎	鈴木 利夫	機械創成工	1	
コンピュータ基礎	伊達 秀文	機械創成工	1	
コンピュータ基礎	小野 憲文	機械創成工	1	
フレッシュマンセミナー	熊谷 正朗	機械創成工	1	162
フレッシュマンセミナー	斎藤 修	機械創成工	1	
フレッシュマンセミナー	梶川 伸哉	機械創成工	1	
コンピュータ応用	佐藤 彰	機械創成工	1	164
コンピュータ応用	小野 憲文	機械創成工	1	
電子計算機	梅津 実	機械創成工	2	140
数値材料工学	伊達 秀文	機械創成工	3	10
コンピュータ基礎	宮澤 正樹	電気情報工	1	157
コンピュータ基礎	大場 佳文	電気情報工	1	
情報科学基礎演習	芳賀 昭	電気情報工	1	151
情報科学基礎演習	宮澤 正樹	電気情報工	1	
数値解析法	芳賀 昭	電気情報工	2	132
数値解析法	神永 正博	電気情報工	2	
コンピュータグラフィックス	大場 佳文	電気・物情	4	79
コンピュータ基礎	淡野 照義	物理情報工	1	88
情報科学基礎	岩本 正敏	物理情報工	1	88
情報システム概論	志子田 有光	物理情報工	1	81
情報科学基礎演習	菜嶋 理	物理情報工	2	82
情報処理工学	岩本 正敏	物理情報工	2	89
電気電子回路学実習	星宮 務	物理情報工	2	81
コンピュータ工学	志子田 有光	物理情報工	3	71
応用物理学概論	志子田 有光	物理情報工	1	77
情報社会と情報倫理	岩本 正敏	電気・物情	1	111
コンピュータ基礎	中沢 正利	環境土木工	1	141
コンピュータ基礎	武田 三弘	環境土木工	1	
プログラミング演習	石川 雅美	環境土木工	2	200
応用数値解析演習	中沢 正利	環境土木工	3	54
CAD 演習	中沢 正利	環境土木工	3	141
コンピュータネットワーク演習	中村 勝一	電気・物情	4	59
教科教育研究Ⅰ（情報）	井口 巖	電気・物情	3	4
教科教育研究Ⅲ（情報）	井口 巖	電気・物情	3	4

4.1.4 時間割表

(1) 土樋情報処理センター

		1 校時(8:30～10:00)	2 校時(10:30～12:00)	3 校時(12:40～14:10)	4 校時(14:20～15:50)	5 校時(16:00～17:30)	6 校時(18:00～19:30)	7 校時(19:40～21:10)
月	811	B3 会計情報システム	B3 管理会計論		B3 経営分析論		B3 会計情報システム	B3 (後)経営統計
	812	B3 会計情報システム	B3 管理会計論		B3 経営分析論		B3 会計情報システム	B3 (後)経営統計
	813	B3 会計情報システム						
	814		H3 基礎統計学					
火	811		B3 管理会計論			大学院1 法情報調査		B3 ビジネス・シミュレーション論
	812		B3 管理会計論			大学院1 法情報調査		
	813						E1 情報リテラシー	E1 情報リテラシー
	814			E3 経済モデルシミュレーション			E3 経済モデルシミュレーション	E3 商品学
水	811	LH3 情報メディアの活用	H3 地域情報学				B3 (後)経営情報論	
	812	LH3 情報メディアの活用	H3 地域情報学				B3 (後)経営情報論	
	813					E4 演習		
	814							
木	811		B3 (後)商品学実習				E1 英語 I	E3 演習 I・II
	812		B3 (後)商品学実習				E1 英語 I	
	813		J3 演習一部				E1 情報リテラシー	E1 情報リテラシー
	814						E1 基礎演習	B2 簿記学Ⅲ
金	811				LH4 情報検索演習		L1 (後)コンピュータ演習	B3 経営分析論
	812				LH4 情報検索演習		L1 (後)コンピュータ演習	
	813		J4 演習二部	J4 演習一部			L3 翻訳実践	
	814		J4 演習二部					
土	811							L3 アメリカの文学と文化Ⅱ
	812							L3 アメリカの文学と文化Ⅱ
	813							
	814							

E・・・経済学科
B・・・経営学科
C・・・商学科

L・・・英文学科
H・・・史学科
J・・・法律学科

(前)・・・前期のみ
(後)・・・後期のみ

(2) 泉情報処理センター

	教室	1 校時(8:30～10:00)	2 校時(10:30～12:00)	3 校時(12:40～14:10)	4 校時(14:20～15:50)	5 校時(16:00～17:30)
月	531 第7コンピュータ室		(前) 英語 IA	英語 IA		
	532 第6コンピュータ室		(前) コンピュータ演習 (後) コンピュータ演習	(前) マルチメディア論 (後) コンピュータ演習	英語 I	
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室	(後) コンピュータと情報処理 II	情報リテラシー	情報リテラシー	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級
	536 第1コンピュータ室				(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級
火	531 第7コンピュータ室	(後) 言語と情報処理	言語文化演習	(前) 基礎コンピュータ A		
	532 第6コンピュータ室	(前) コンピュータグラフィックス入門 (後) コンピュータ演習	(前) コンピュータ演習	(後) 基礎コンピュータ B		
	533 第4コンピュータ室				(前) 情報科学演習 A	(前) 情報科学演習 A
	534 第3コンピュータ室	英語 II	(前) コンピュータ演習 (後) 基礎コンピュータ B	(前) コンピュータ演習 (後) 基礎コンピュータ B	(前) コンピュータ演習 (後) 総合演習	
	536 第1コンピュータ室	(後) コンピュータと論理	(前) 基礎コンピュータ A (後期) コンピュータ演習	(前) 基礎コンピュータ A	心理実験実習	心理実験実習
水	531 第7コンピュータ室		英語 IB	(前) 基礎演習 (後) 基礎演習	英語演習	
	532 第6コンピュータ室		情報リテラシー	情報リテラシー	(後) 基礎演習	
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室		(前) コンピュータ演習			
	536 第1コンピュータ室	(前) プログラミング上級 (後) 基礎コンピュータ B	情報リテラシー	情報リテラシー	(後) 基礎演習	(後) 総合演習
木	531 第7コンピュータ室					
	532 第6コンピュータ室	(前) コンピュータ演習 (後) コンピュータ演習	(後) コンピュータ演習	(前) コンピュータ演習 (後) コンピュータ演習		
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室	(後) 現代社会の諸問題		(前) 基礎コンピュータ A		
	536 第1コンピュータ室	(前) 基礎コンピュータ A				
金	531 第7コンピュータ室	英語 II	英語 IB	(後) 対象言語学		
	532 第6コンピュータ室		(後) コンピュータグラフィックス入門			
	533 第4コンピュータ室		(後) 基礎統計学			
	534 第3コンピュータ室	情報リテラシー	情報リテラシー		社会調査実習	社会調査実習
	536 第1コンピュータ室	情報リテラシー	情報リテラシー			
土	531 第7コンピュータ室					
	532 第6コンピュータ室					
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室					
	536 第1コンピュータ室					

(前)・・・前期のみ (後)・・・後期のみ

多賀城情報処理センター

	教室	1 校時(8:30～10:00)	2 校時(10:30～12:00)	3 校時(12:40～14:10)	4 校時(14:20～15:50)	5 校時(16:00～17:30)
月	第 1 演習室	(後)情報社会と情報倫理	(前)応用物理学概論		(前)コンピュータ基礎 (後)情報科学基礎	(前)コンピュータ基礎 (後)情報科学基礎
	第 2 演習室		(前)応用物理学概論		(前)数値材料工学 (後)コンピュータグラフィックス	
火	第 1 演習室	(後)情報処理工学	(後)情報処理工学		(前)コンピュータ基礎	
	第 2 演習室	(後)情報科学基礎演習	(後)情報科学基礎演習		(前)コンピュータ基礎	
水	第 1 演習室	(後)コンピュータ基礎	(前)数値解析法	(前)コンピュータ基礎	(前)情報科学基礎演習	(前)情報科学基礎演習 (後)情報科学基礎演習
	第 2 演習室	(後)コンピュータ基礎	(前)数値解析法	(前)コンピュータ基礎 (後)電気電子回路学実習	(後)電気電子回路学実習	(前)情報科学基礎演習 (後)電気電子回路学実習
木	第 1 演習室	(前)情報科学基礎演習 (後)情報科学基礎演習	(前)電子計算機			(前)コンピュータネットワーク演習 (後)プログラミング演習
	第 2 演習室		(前)電子計算機	(後)コンピュータ工学		(前)応用数値解析演習 (後)プログラミング演習
金	第 1 演習室	(前)情報システム概論	(前)情報システム概論 (後)コンピュータ応用			
	第 2 演習室		(後)コンピュータ応用		(前)コンピュータ基礎	(前)コンピュータ基礎
土	第 1 演習室	(前)教科教育研究 I (後)教科教育研究 III	(前)CAD 演習			
	第 2 演習室		(前)CAD 演習			

4.2 各種会議報告

4.2.1 情報システム委員会

日 時	場 所	議 題
平成 16 年 11 月 29 日 14 時 00 分～15 時 00 分	土樋 5 号館 6 階 第 4 会議室	1) 各キャンパス情報処理センター平成 16 年度補正予算について 2) 各キャンパス情報処理センター平成 17 年度当初予算について 3) その他

4.2.2 情報システム部会

日 時	場 所	議 題
平成 16 年 7 月 22 日 14 時 30 分～15 時 30 分	土樋 5 号館 6 階 第 4 会議室	1) 部長挨拶 2) 各キャンパス・各学部からの報告 3) 情報システム課からの報告 4) その他
平成 16 年 8 月 18 日 14 時 30 分～15 時 30 分	土樋 8 号館 3 階 第 1 会議室	1) 職員人事に関する部の方針について 2) その他
平成 16 年 9 月 9 日 14 時 00 分～15 時 00 分	土樋 8 号館 3 階 第 1 会議室	1) 各キャンパスおよび学部からの報告 2) 著作権処理について 3) その他
平成 16 年 10 月 7 日 14 時 00 分～15 時 00 分	土樋 5 号館 6 階 第 3 会議室	1) 各キャンパスおよび学部からの報告 2) その他
平成 16 年 11 月 11 日 14 時 00 分～15 時 00 分	土樋 5 号館 6 階 第 4 会議室	1) 各キャンパスおよび学部からの報告 2) 各キャンパス情報処理センター予算 3) その他
平成 16 年 12 月 16 日 14 時 00 分～15 時 00 分	土樋 5 号館 6 階 第 4 会議室	1) 各キャンパスおよび学部からの報告 2) その他
平成 17 年 1 月 27 日 14 時 00 分～15 時 00 分	土樋 8 号館 3 階 第 2 会議室	1) 各キャンパスおよび学部からの報告 2) その他
平成 17 年 2 月 24 日 14 時 00 分～15 時 00 分	土樋 5 号館 6 階 第 4 会議室	1) 各キャンパスおよび学部からの報告 2) その他

4.2.3 所員会議

(1) 土樋キャンパス

日 時	場 所	議 題
平成 16 年 11 月 5 日 10 時 30 分～11 時 30 分	土樋 5 号館 6 階 第 3 会議室	1) 平成 16 年度補正予算について 2) 平成 17 年度補正予算について 3) その他

(2) 多賀城キャンパス

開催なし

(3) 泉キャンパス

開催なし

4.3 講習会

(1) 土樋情報処理センター

東北学院大学就職部主催夏期就職対策パソコン講習会			
コース		受講者数(人)	期間
パソコン操作マスターコース	まるごとコース	65	8月24日～9月3日
	個別受講 Word	17	
	個別受講 Excel 基礎	28	
	個別受講 Excel 応用	25	
	個別受講 PowerPoint	19	

(2) 泉情報処理センター

東北学院大学就職部主催夏期就職対策パソコン講習会			
コース		受講者数(人)	期間
パソコン操作マスターコース	まるごとコース	3	10月7日～12月9日
	個別受講 Word	6	
	個別受講 Excel 基礎	3	
	個別受講 Excel 応用	3	
	個別受講 PowerPoint	35	
パソコン資格取得コース	Excel2003 スペシャリスト	5	

4.4 センター見学者

(1) 土樋キャンパス

	日 付	学 校 名	人 数
1	平成 16 年 5 月 10 日	宮城県石巻市立蛇田中学校	6
2	平成 16 年 5 月 14 日	山形県尾花沢市立鶴子中学校	3
3	平成 16 年 5 月 20 日	宮城県岩沼市立岩沼北中学校	3
4	平成 16 年 6 月 19 日	岩手県花巻東高等学校	42
5	平成 16 年 7 月 8 日	宮城県聖ウルスラ学院高等学校	30
6	平成 16 年 10 月 22 日	青森県八戸南高等学校	27
7	平成 16 年 11 月 2 日	山形県真室川町立真室川中学校	3
8	平成 16 年 11 月 4 日	宮城県七ヶ浜町立七ヶ浜中学校	7
9	平成 16 年 11 月 19 日	宮城県仙台市立台原中学校	4

(2) 泉キャンパス

	日 付	学 校 名	人 数
1	平成 16 年 4 月 30 日	福島県桜の聖母学院高等学校	74
2	平成 16 年 4 月 30 日	宮城県佐沼高等学校	94
3	平成 16 年 5 月 11 日	岩手県盛岡大付属高等学校	76
4	平成 16 年 5 月 21 日	宮城県追分高等学校	161
5	平成 16 年 5 月 27 日	宮城県中新田高等学校	20
6	平成 16 年 5 月 28 日	福島県福島東稜高等学校	19
7	平成 16 年 6 月 3 日	福島県福島北高等学校	280
8	平成 16 年 6 月 7 日	山形県酒田商業高等学校	20

9	平成 16 年 6 月 7 日	福島県福島成蹊高校	22
10	平成 16 年 6 月 10 日	山形県谷地高等学校	26
11	平成 16 年 6 月 11 日	宮城県富谷高等学校	73
12	平成 16 年 6 月 11 日	福島県浪江高等学校	40
13	平成 16 年 6 月 16 日	山形県米山高等学校	10
14	平成 16 年 6 月 16 日	福島県青陵情報高等学校	84
15	平成 16 年 6 月 18 日	福島県小高商業高等学校	45
16	平成 16 年 6 月 23 日	宮城県角田高等学校	126
17	平成 16 年 6 月 28 日	宮城県石巻西高等学校	52
18	平成 16 年 6 月 30 日	宮城県迫桜高等学校	19
19	平成 16 年 7 月 7 日	宮城県岩ヶ崎高等学校	124
20	平成 16 年 7 月 9 日	山形県天童高等学校	49
21	平成 16 年 7 月 13 日	山形県南陽高等学校	166
22	平成 16 年 7 月 14 日	宮城県塩釜女子高等学校	14
23	平成 16 年 7 月 14 日	福島県相馬東高等学校	30
24	平成 16 年 7 月 15 日	福島県相馬東高等学校	40
25	平成 16 年 7 月 15 日	栃木県黒磯高等学校	40
26	平成 16 年 7 月 17 日	福島県会津学鳳高等学校	40
27	平成 16 年 7 月 29 日	青森県八戸東高等学校	50
28	平成 16 年 7 月 29 日	青森県八戸西高等学校	60
29	平成 16 年 7 月 30 日	福島県南会津高等学校	10
30	平成 16 年 8 月 2 日	宮城県古川女子高等学校	
31	平成 16 年 8 月 3 日	秋田県角館高等学校	20
32	平成 16 年 8 月 3 日	山形県酒田西高等学校	114
33	平成 16 年 9 月 17 日	山形県光南高等学校	30
34	平成 16 年 10 月 5 日	山形県米沢東高等学校	96
35	平成 16 年 10 月 8 日	岩手県盛岡中央高等学校	40
36	平成 16 年 10 月 14 日	岩手県盛岡南高等学校	160
37	平成 16 年 10 月 14 日	福島県双葉翔陽高等学校	30
38	平成 16 年 10 月 15 日	宮城県第三女子高等学校	56
39	平成 16 年 10 月 19 日	青森県三戸高等学校	21
40	平成 16 年 10 月 21 日	岩手県高田高等学校	15
41	平成 16 年 10 月 23 日	岩手県高田高等学校	40
42	平成 16 年 10 月 23 日	山形県山形北高等学校	22
43	平成 16 年 10 月 28 日	宮城県築館高等学校	55
44	平成 16 年 10 月 28 日	宮城県築館女子高等学校	
45	平成 16 年 10 月 29 日	福島県あさか開成高等学校	40
46	平成 16 年 11 月 18 日	岩手県水沢第一高等学校	20
47	平成 16 年 12 月 10 日	福島県小野高等学校	19
48	平成 17 年 1 月 19 日	宮城県飯野川高等学校	4
49	平成 17 年 3 月 10 日	宮城県尚綱学院高等学校	50
50	平成 17 年 3 月 23 日	秋田県能代北高等学校	20

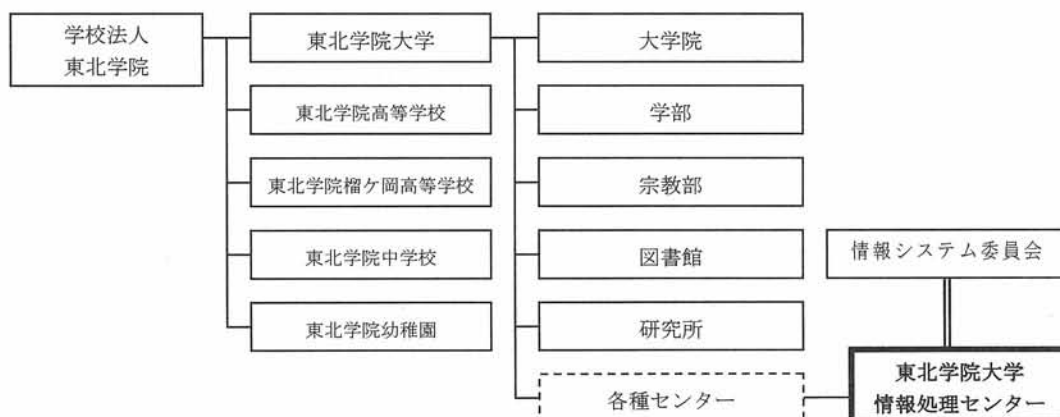
(3) 多賀城キャンパス

	日 付	学 校 名	人 数
1	平成 16 年 6 月 28 日	石巻西高等学校	
2	平成 16 年 7 月 8 日	東北学院中学高等学校	

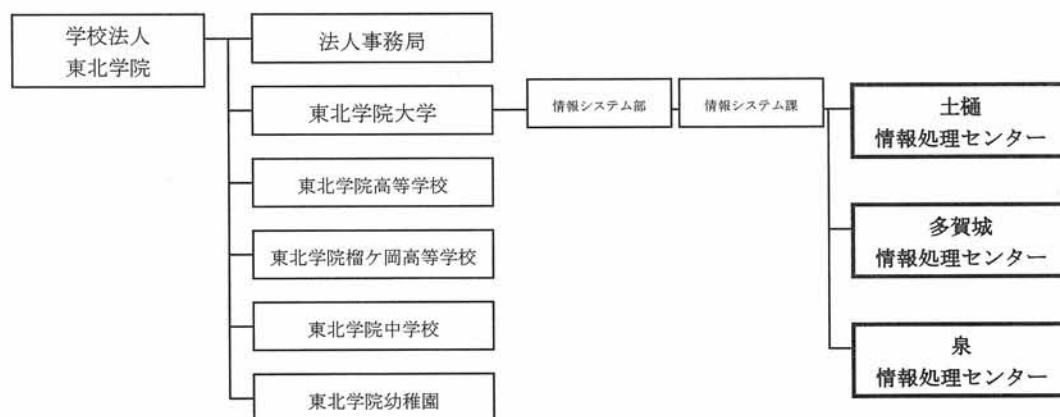
5 平成 16 年度情報処理センター運営組織

5.1 組織図

(1) 教学組織図



(2) 事務組織図



5.2 情報システム委員会名簿

	氏 名	役 職
システム委員	高 木 龍一郎	情報システム部長
	遠 藤 健 一	情報システム副部長
	根 市 一 志	情報システム副部長
	澤 野 和 博	情報システム副部長
	佐 藤 彰	情報システム副部長
	松 澤 茂	情報システム副部長
	辻 秀 人	文 学 部 (センター所員)
	櫻 井 貴 憲	経 済 学 部 (センター所員)
	井 上 義比古	法 学 部 (センター所員)
	石 川 雅 美	工 学 部 (センター所員)
	谷田部 武 男	教 養 学 部 (センター所員)
	石 井 勝 雄	法人事務局 (庶務課長)
	吉 田 知 致	法人事務局 (広報課長)
	高 橋 清 昭	法人事務局 (財務課長)
	菅 野 健	大学 (総務部次長)
	高 橋 嘉 男	大学 (総務部次長)
	相 澤 義 光	大学 (総務部次長)
	佐々木 文彦	大学 (教務課長)
	今 野 靖	大学 (学生課長)
	吉 田 俊 一	大学 (施設課長)
	伊 藤 秀 夫	大学 (情報システム課長)

5.3 情報処理センター構成員名簿

	氏 名		学 部	発 令	任 期
センター長	高 木 龍一郎		法学部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
主任	土樋情報処理センター	高 木 龍一郎	法 学 部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
	多賀城情報処理センター	佐 藤 彰	工 学 部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
	泉情報処理センター	松 澤 茂	教養学部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
所員	土樋情報処理センター	辻 秀 人	文 学 部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
		桜 井 貴 憲	経済学部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
		井 上 義比古	法 学 部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
	多賀城情報処理センター	石 川 雅 美	工 学 部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
	泉情報処理センター	谷田部 武 男	教養学部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
所 属		氏 名			
職員	土樋情報処理センター	熊 谷 由 香			
		高 橋 秀 之			
		原 田 淳			
	多賀城情報処理センター	齋 藤 吉 重			
		坂 本 尚 彦			
		鈴 木 慶 明			
	泉情報処理センター	泉 亜紀子			
		熊 谷 丈 晃			
		桜 井 宏 行			

6. 東北学院大学情報処理センター利用規程

6.1 東北学院大学情報システム委員会規程

(制定 平成16年4月1日)

(趣旨)

第1条 この規程は、東北学院大学情報システム委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 委員会は東北学院大学情報処理センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本方針、その他重要事項を審議する。

(組織)

第3条 委員会は次の委員をもって構成する。

- (1) 情報システム部長
 - (2) 情報システム副部長
 - (3) センター所員
 - (4) 法人事務局職員 庶務課長、広報課長及び財務課長
 - (5) 大学事務職員 総務部次長、総務部次長（多賀城キャンパス担当）、総務部次長（泉キャンパス担当）、総務課長、教務課長、学生課長、施設課長及び情報システム課長
- 2 委員長は情報システム部長とする。

(審議事項)

第4条 委員会は次の事項を審議する。

- (1) センターの事業および予算・決算
- (2) その他、センターの運営に関して委員会が必要と認めた事項

(委員の委嘱)

第5条 委員の委嘱は、大学長がこれを行う。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員会)

第7条 委員会は委員長がこれを招集し、議長となる。

- 2 委員会は、必要に応じて委員以外の関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(センターの管理運営)

第8条 センターの管理運営は、東北学院大学情報処理センター規程の定めるところによる。

(事務の所管)

第9条 委員会の事務は、情報システム課が行う。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は委員会の発議により学部教授会及び全学教授会の議を経て理事会がこれを行う。

附則

1 この規程は平成 16(2004)年 4 月 1 日施行する。

2 東北学院大学情報処理センター運営委員会規程は、これを廃止する。

6.2 東北学院大学情報処理センター規程

(制定 平成 2 年 6 月 1 日)

改正 平成 7 年 4 月 1 日

改正 平成・16 年 4 月 1 日

(設置)

第1条 東北学院大学（以下「大学」という。）に情報処理センター（以下「センター」という。）を置く。

(趣旨)

第2条 この規程は、東北学院大学情報システム委員会規程第 8 条にもとづき、センターの組織および運営について必要な事項を定める。

(施設)

第3条 センターの情報処理施設は次の場所に設置する。

- (1) 東北学院大学土樋キャンパス（仙台市青葉区土樋一丁目 3 番 1 号）
- (2) 東北学院大学多賀城キャンパス（多賀城市中央一丁目 13 番 1 号）
- (3) 東北学院大学泉キャンパス（仙台市泉区天神沢二丁目 1 番 1 号）

2 前項各号の施設の名称は以下のとおりとする。

- (1) 東北学院大学土樋情報処理センター
- (2) 東北学院大学多賀城情報処理センター
- (3) 東北学院大学泉情報処理センター

(目的)

第4条 センターは、学術研究のための情報処理を行うことによって教育・研究の推進に寄与することを目的とする。

(組織)

第5条 センターに次の職員を置く。

- (1) センター長 1名
- (2) 主 任 各キャンパスに1名ずつ
- (3) 所 員 各学部から1名
- (4) 事務職員 若干名

(センター長)

第6条 センター長は、情報システム部長がこれにあたり、大学長が委嘱する。

- 2 センター長は、センターに関する業務を統括する。
- 3 センター長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(主任)

第7条 主任は、情報システム部長または副部長がこれにあたり、大学長が委嘱する。

- 2 主任はセンター長を補佐し、各キャンパスに設置した情報処理施設に関する業務を統括する。
- 3 主任の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(所員)

第8条 所員は大学の教育職員からセンター長の推薦により大学長がこれを委嘱する。

- 2 所員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(事務職員)

第9条 事務職員はセンターの目的遂行のために必要な一般事務、並びに技術的諸業務を行う。

(利用規則)

第10条 センターの利用規則は別に定める。

(規程の改廃)

第11条 この規則の改廃は情報システム委員会の議を経て理事会がこれを行う。

附則

この規程は、平成2年6月1日から施行する。

附則

この規程は、平成7(1995)年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成16(2004)年4月1日から施行する。

6.3 東北学院大学情報処理センター利用規則

改正 平成 16 年 4 月 1 日

(利用者の資格)

第1条 東北学院大学情報処理センター（以下「センター」という）を利用することができる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 東北学院の専任職員
- (2) 東北学院大学の院生・学生
- (3) その他、東北学院大学情報処理センター長（以下「センター長」という）が適当と認めた者

(利用の申請)

第2条 センターを利用する者は、センター所定の利用申請書をセンター長に提出し、その承認を得なければならない。ただし、第1条第2号に該当する者は、原則として指導教員が申請者となる。

(利用の方法)

第3条 センターの利用については、センター長の指示に従うものとする。

(利用の停止)

第4条 利用者が本規則に従わない場合は、センター長がその者の利用を停止することがある。

(利用報告書の提出)

第5条 利用者はセンター長から報告を求められたときは、速やかに利用報告書をセンター長に提出しなければならない。

(規程の改廃)

第6条 この規則の改廃は情報システム委員会が行う。

附則

- 1 この規程は平成 2 年 6 月 1 日から施行する。
- 2 東北学院情報処理センター利用規則は、これを廃止する。

附則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

7. 編集後記

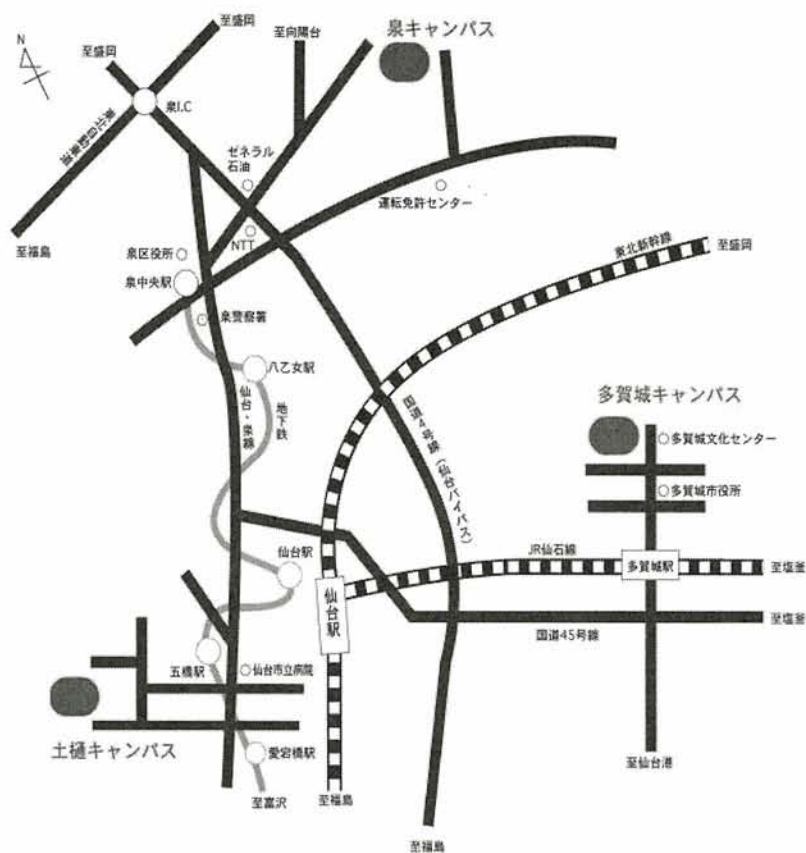
本年度で東北学院大学情報処理センター年報は第3号となります。4年に1度のシステム更新の1年目を迎え各キャンパスのシステムは正常に稼動しております。

基本的な構成については昨年の創刊号を踏襲し、平成16年度の3キャンパス情報処理センターを利用した講義内容紹介や研究内容紹介、情報処理センターに関わる各種のデータ（利用者数統計等）を掲載しておりますが、本年度については表紙デザインを一新し統計データの一部を変更しました。

内容的にはまだまだ不十分ですが、今後はより一層の内容の充実をはかっていくとともに、今回発行にあたって、ご寄稿いただいた先生方、講義内容の紹介ならびに研究内容の紹介をいただいた教員の皆様に感謝申し上げます。

（編集委員ならびに編集事務スタッフ一同）

編集長	（法学部教授）	高木 龍一郎
編集委員	（工学部教授）	佐藤 彰
編集委員	（教養学部教授）	松澤 茂
編集事務スタッフ		熊谷 由香
編集事務スタッフ		高橋 秀之
編集事務スタッフ		原田 淳
編集事務スタッフ		齋藤 吉重
編集事務スタッフ		坂本 尚彦
編集事務スタッフ		鈴木 慶明
編集事務スタッフ		泉 亜紀子
編集事務スタッフ		熊谷 丈晃
編集事務スタッフ		桜井 宏行



● 多賀城キャンパス

(工学部)

多賀城情報処理センター

〒985-8537 多賀城市中央一丁目13番1号

電話(022)-368-1100

■交通機関 ◆仙台駅より JR 仙石線にて多賀城

駅下車徒歩 10 分

● 土樋キャンパス

(文・経済・法学部 3・4 年次および夜間主)

土樋情報処理センター

〒980-8500 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

電話(022)-264-6502

■交通機関 ◆仙台駅より地下鉄富沢駅行乗車

五橋・愛宕橋駅下車徒歩 5 分

● 泉キャンパス

(文・経済・法学部 1・2 年次および教養学部)

泉情報処理センター

〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号

電話(022)-375-1181

■交通機関 ◆仙台駅より地下鉄泉中央駅行乗車

泉中央駅下車泉中央駅よりバス



東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY